

朝霞市外部評価委員会（第4回）
次 第

日時 令和7年7月16日（水）
午後2時から

場所 朝霞市役所
別館2階 全員協議会室

1 開 会

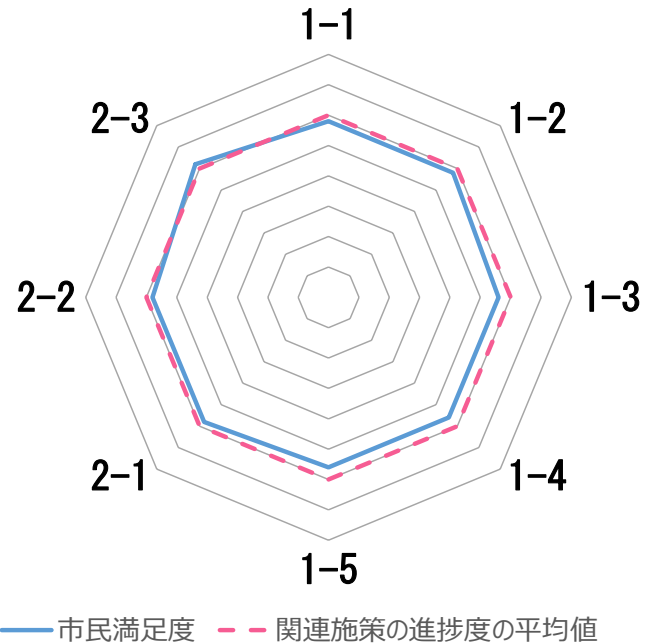
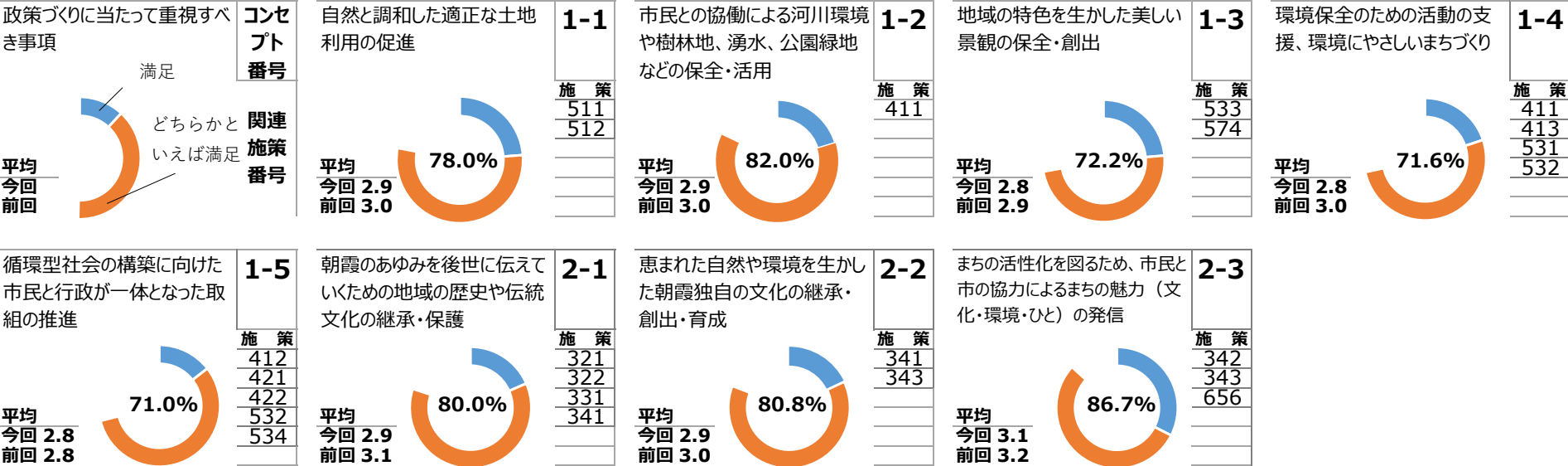
2 議 事

（1）外部評価「自然・環境に恵まれたまち」

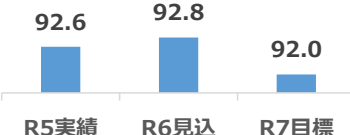
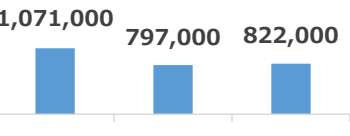
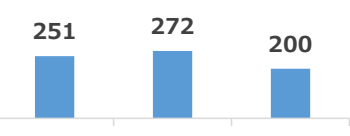
3 その他

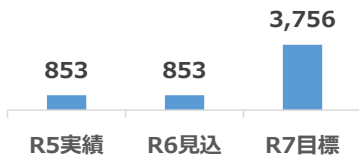
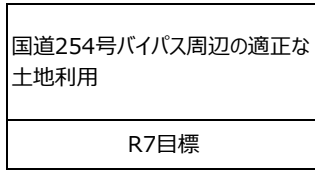
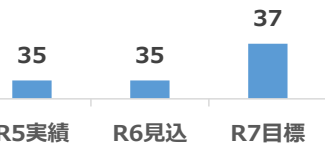
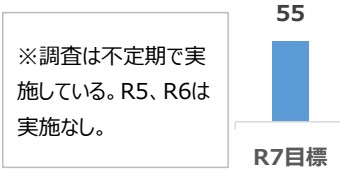
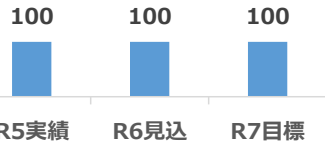
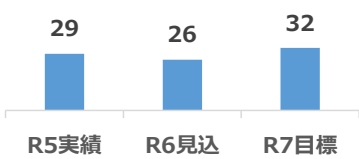
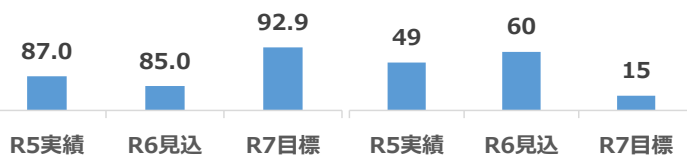
4 閉 会

市民満足度アンケート結果：4段階判定（4満足・3どちらかといえば満足・2どちらかといえば不満・1不満）



進捗状況（市の自己評価）：4段階判定（4極めて順調・3おおむね順調・2やや遅れている・1大幅に遅れている）

進捗度	施策コード	まちの状態を表す指標 (施策評価シートの指標)	進捗度	321	事業参加者満足度 (%)	進捗度	322	事業参加者数 (人)
今回	施策名		3	生涯学習活動の推進		3	学びを支える環境の充実	
前回	総コスト (千円)		3	42,558	R5実績 R6見込 R7目標	3	952,728	R5実績 R6見込 R7目標
進捗度	331	週1回以上スポーツを行っている人の割合 (%)	進捗度	341	博物館展示回数 (回)	進捗度	342	文化祭入場者数 (人)
3	スポーツ・レクリエーション活動の推進	※アンケートは不定期で実施している。R5、R6は実施なし。	3	歴史や伝統の保護・活用		3	芸術文化の振興	
3	35,620	R7目標	3	85,314	R5実績 R6見込 R7目標	3	9,113	R5実績 R6見込 R7目標
進捗度	343	地域イベント参加者数 (人)	進捗度	411	典型7公害苦情受付件数 (件)	進捗度	412	市事務事業のCO2排出量の削減率 (%)
3	地域文化によるまちづくり		3	住みよい環境づくりの推進		3	低炭素・循環型社会の推進	
3	3,278	R5実績 R6見込 R7目標	3	39,565	R5実績 R6見込 R7目標	3	71,877	R5実績 R6見込 R7目標
進捗度	413	環境美化ポスターの応募者数 (人)	進捗度	421	市民一人当たりごみ排出量 (g/日)	進捗度	422	ごみ焼却処理施設の稼働率 (%)
3	環境教育・環境学習の推進		3	ごみの減量・リサイクルの推進		3	ごみ処理体制の充実	
3	35,108	R5実績 R6見込 R7目標	3	33,071	R5実績 R6見込 R7目標	3	1,710,831	R5実績 R6見込 R7目標

進捗度	511	区画道路整備延長（m）	進捗度	512	市街化調整区域の適正な土地利用（－）	進捗度	531	市内全域における緑被面積の割合（％）
	3	市街地の適正な利用		3	市街地周辺の適正な土地利用		3	まちの骨格となる緑づくり
	3	314,504		3	57,623		3	814,063
								
進捗度	532	公園・緑地管理ボランティア団体数（団体）	進捗度	533	景観の満足度（％）	進捗度	534	雨水流出抑制施設設置割合（％）
	3	うるおいのある生活環境づくり		3	まちの魅力を生み出す景観づくり		3	循環型社会を目指した環境にやさしいまちづくり
	3	15,953		3	6,466		3	3,162
								
進捗度	574	認定農業者数（人）	進捗度	656	市に愛着を感じている市民の割合（％）			
	3	都市農業の振興		3	シティ・プロモーションの展開			
	3	117,466		3	21,449			
								

市民満足度アンケート自由記述欄（主なもの）

○自然・景観 ・もっと市民の皆さんに朝霞市の自然の良さを感じてもらえるようにしたい。（他1件） ・道路にはみ出した樹木の枝の除去を進めていただきたい。（他5件） ・緑がたくさんあって、住みやすいと感じています。（他9件） ・宅地化が進み、自然が少しずつ少なくなっているように感じる。 ・駅周辺などは、四季折々の花があり和みます。（他1件） ・青葉台公園周辺も、あえて自然を活かすと言えば聞こえがいいだけで、整備が今ひとつの雑木林が多く、安全面でも不安を感じる。 ○黒目川 ・黒目川の土手は、整備により散歩しやすくなりました。（他2件） ・黒目川の水質も維持してほしい。 ・バーベキューや花火の後のゴミの放置を何とかしてほしい。 ・都市部に近いのにこれだけリフレッシュできる環境があるのは貴重だと思う。 ○シンボルロード ・シンボルロードばかりに力をいれ、税金を使っている。（他1件） ・清潔なベンチでもあればいいが、交通量の多い道路のすぐそばなので、行こうと思わない。 ・シンボルロードは子どもと散歩がしやすく、歩いていて気持ちがいい。 ○開発・土地利用 ・駅周辺問わずマンションだらけ、ビルばかり見えるのはとても美しいとは思わない。（他8件） ・畑がなくなるとすぐに宅地になってしまう。自然・環境保全にもっと力を入れてほしい。 ・水害に遭う可能性が高い低い土地への公共施設建設をやめてほしい。 ・朝霞台駅・北朝霞駅周辺の再開発、朝霞台駅の整備が遅れている。 ・環境的にも、今後の食料安全保障の観点からも、朝霞の農地・農業を守ることは重要だと考える。	○公園 ・島の上公園の樹木が病気等でかなり伐採されている。伐採した後、新たに植樹はされないのか。 ・城山公園は歴史も感じられる貴重な場所でもあるが、寂しく感じる。魅力のある憩いの場となる公園にしたらよい。 ・樹木などで道路の道路の見通しが悪くなっている公園がある。車両や人が通行する時の安全面を考えながら公園等の維持管理をすべき。 ・花火やボール遊びができる公園が、バツとみてわかる地図がほしい。 ・犬が入れる公園が少ない。 ・朝霞の森もそうだが、駅から近いところに広くて安全にゆっくりできる空間があることは貴重だと思う。 ○ごみ・リサイクル ・多様なごみを処理できるようになってもらいたい。 ・ごみの出し方をわかりやすく知りたい。 ・リサイクルショップは買取基準が厳しいので利用していない。若い人たちが気軽に出品したり、購入できるようにしてほしい。 ・リサイクルプラザの出品数が増えたのは嬉しい。インターネットの活用で、品物の紹介をしたり、回転率を上げることが出来るのではないかと思う。 ・リサイクルショップの情報をもっと発信してほしい。 ・ごみの不法投棄がここ数年で改善したように感じる。 ・近くに公園が出来たら、ごみ置き場に不法投棄（特にお酒の瓶・缶類）が増え困っている。ごみは持ち帰るよう、全公園に大きく掲示してほしい。	○彩夏祭 ・彩夏祭はいつも楽しみにしているので継続してもらいたい。（他7件） ・彩夏祭で踊っているが、暑さが危険な為、時期を変えてほしい。（他2件） ・彩夏祭は朝霞市民が優先される部分をもっと作ってほしい。（他1件） ・最近の彩夏祭は本当に市民の祭りなのかと思う。他のまちでも出来るようなイベントではなく、朝霞ならではの祭りにしてほしい。 ○その他イベント ・シンボルロードのイルミネーションはとてもいいイベントだと思う。（他3件） ・シンボルロードのイルミネーションに統一感がない。 ・イルミネーションは綺麗だもったいない。ここにお金をかけすぎないで、安全・防犯・教育・福祉などに予算をまわしてほしい。 ・イルミネーションは太陽光を取り入れるなど、節電されているのか。 ・ストリートテラスの回数を増やしてほしい。（他1件） ・ストリートテラスやイルミネーションなど、楽しませてもらっている。北朝霞駅方面でも似たような催しがあるとよい。 ○歴史・文化財 ・博物館の展示や講座はとても満足している。（他1件） ・市内の歴史名所をめぐる、コミュニティバスによるツアーを行っただいかがか。 ・朝霞市の埋蔵文化財など、どんなものが出土されているのか知らないことが多い。観光の面からも、もっとPRする必要があると思う。 ○シティ・プロモーション ・もっとぼたんを利用した方がいいと思う。 ・ペーパーレス化が進み、高齢者や障害者等のSNS利用が難しい人には困難な状況になっている。
---	--	--

321 生涯学習活動の推進

資料 4 - 2



担当課

生涯学習・スポーツ課

関連課

—

目 指 す 姿

市民の学習ニーズに応えた学習や学習情報の提供及び活動の充実が図られ、いつでも、どこでも、誰でもが学べる生涯学習環境が整っている。また、市民による自主的な活動が活発に行われるとともに、学習の中心となる人材の育成と活用が図られている。

まち・ひと・しごと目標

—

《後期基本計画冊子 P88》

指標 1

事業参加者満足度（％）

生涯学習各種事業における満足度

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
93.1	92.6	92.8	92.0

指標 2

—

—

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

令和 7 年度から市内 2 つの小学校で開始する居場所提供型の放課後子ども教室の開設準備を行った。

【継続】

- ・社会教育委員会議を3回開催した。会議では、第3次生涯学習計画後期期間の進捗管理を行うとともに、生涯学習施策の推進体制等について建議いただき、方向性が明示された。
- ・生涯学習ガイドブック「コンパス」を発行し、生涯学習情報の周知を図った。また、市民等の自主的な学習活動に対し、補助金を交付し、団体等の活動支援を行った。
- ・市民企画講座、生涯学習体験教室、放課後子ども教室など各種事業を実施し、事業の推進に努めた。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【外部評価】

総合的に施策全体を効率化する上で、ICT化を推進するのは大きな要素と考えている。そのためには市民のICTに対する理解やスキルを底上げして市民の大多数が使える、使えて当たり前という状況が作り出せるとやり方が大きく変われるのではと思う。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

従来どおり社会教育委員会議を3回開催した。うち1回は、視察研修会を実施。志木市「放課後志木っ子タイム」を視察し、放課後子ども教室についての知見を深めていただいた。会議では、第3次生涯学習計画の後期期間における令和5年度の事業評価について建議いただくとともに、計画の進捗管理等について、ご意見等いただいた。また、生涯学習部における事業報告と事業計画についてお諮りし、ご意見をいただくことで、本市の生涯学習の方向性が示された。

【外的要因】

生涯学習体験教室において、人生100年時代の健康、終活などをテーマとする講座が多く開催され、多くの方に参加いただいた。市民ニーズの変化をとらえた事業展開となったと考える。

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

生涯学習体験教室で、市民ニーズをとらえた多様なテーマの講座が実施されており、終活などより身近で実用性の高いテーマの講座に参加者が多く、満足度も高かった。市民の自主的な学びを支援する事業を通じて、継続的な学びを支援していく。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	人権教育振興事業	6,804	8,837	5,444	継続
2	成人の日記念式典事業	11,528	12,347	7,154	継続
3	生涯学習啓発推進事業	15,356	21,212	18,894	継続
4	放課後子ども教室事業	12,407	11,963	11,066	拡充
5	家庭教育推進事業【再掲】	—	—	—	継続
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		46,095	54,359	42,558	

総コスト（事業費＋人件費）の 経年変化 単位：千円	R4年度 46,095	R5年度 54,359	R6年度(見込み) 42,558
------------------------------	----------------	----------------	---------------------

6 現状と課題の分析

インターネットなどにより、自身の都合でさまざまな分野について学習できる状況となっており、社会教育施設を活用することなく、情報交換や学習の場を作り出すことができるようになってい

7 今後の展開

生涯学習施策の根幹である「第3次朝霞市生涯学習計画」を基に、多様な学習プログラム、生涯学習情報の提供に努めていく。本計画の基本理念である「一人一人が心豊かに ともに学び 生きるまち あさか」を実践し、市民が主体的に学び、生涯学習を通じた地域や家庭で共に学びあう社会の実現に向けた生涯学習施策を推進する。

8 行政と市民の役割分担

第3次朝霞市生涯学習計画に則り、市は市民の学びを支援し、市民が学び合い、教え合うといった、「知の循環型社会」が構築されていくよう、サポートに努める。また、市は市民とともに協働で学習活動が推進されていくように事業展開を推進する。

9 所管部の総括

令和6年度は生涯学習施策全般について、概ね従前のとおり運営することができた。地域の大学や民間事業者との新たな取組としての事業の拡充を図るとともに、従前からの生涯学習事業を見直し、ニーズに応えられる事業となるよう努め、生涯学習施策の推進に努めていく。

322 学びを支える環境の充実

担当課 中央公民館
関連課 図書館、文化財課



目 指 す 姿

「いつでも」、「どこでも」、「誰でも」が学べる施設運営が図られ、市民ニーズに応じた学習、文化活動が充実することにより、市民は教養や健康の維持向上を図る機会を享受し、豊かな社会生活を営んでいる。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P88》

指標 1

事業参加者数（人）

公民館、図書館、文化財課が行う生涯学習事業の参加者総数

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
31,723	24,996	31,068	70,000

指標 2

—

—

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

- ・公民館では、中央公民館長寿命化改修工事及び南朝霞公民館空調設備改修工事の設計業務委託のほか東朝霞公民館空調設備改修工事、北朝霞公民館空調設備改修工事を実施した。
- ・博物館では、外壁等改修工事及び受水槽ユニット改修工事を実施した。

【継続】

- ・公民館では、各種主催事業の実施、利用団体への部屋の貸出しを行った。また、施設の維持管理、必要な修繕を実施した。
- ・図書館では、資料の適切な選定、収集、保存、提供及び各種事業の実施により、市民の生涯学習活動の推進を図った。
- ・博物館では、展示、教育普及、資料調査、資料保存及び施設の維持管理を実施した。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

- ・各審議会において、事業計画や新規の取組みなどについて承認をいただいた。今後も利用者のニーズを把握しながら運営を行うよう意見をいただいた。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

- ・公民館では、事業は当初の計画通り概ね実施することができた。また、施設改修も計画的に行われている。
- ・図書館では、利用者への安定的な資料提供を行うとともに、施設管理について必要な修繕を行うことができた。
- ・博物館では、可能な限り定員や回数を増やして事業を展開した。

【外的要因】

事業参加者も前年と比較し増加しており新たな事業展開も念頭に置き、取り組んでいく。

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

生涯学習における様々な学びを支えるため、中央公民館、文化財課、図書館ともに、今後もそれぞれの事業の継続が必要である。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	西朝霞公民館運営事業	13,147	11,815	13,294	継続
2	中央公民館運営事業	22,908	14,791	17,188	継続
3	東朝霞公民館運営事業	13,868	14,582	16,311	継続
4	内間木公民館運営事業	12,847	10,690	13,513	継続
5	南朝霞公民館運営事業	11,615	11,927	14,108	継続
6	北朝霞公民館運営事業	17,044	17,225	15,447	継続
7	図書館運営事業	146,888	150,668	151,050	継続
8	図書館北朝霞分館運営事業	66,607	67,117	71,474	継続
9	博物館運営事業	44,642	38,673	41,987	継続
10	西朝霞公民館管理事業	14,753	14,150	15,077	継続
11	中央公民館管理事業	39,362	32,603	35,818	継続
12	東朝霞公民館管理事業	16,629	15,491	14,050	継続
13	内間木公民館管理事業	14,288	15,761	16,281	継続
14	南朝霞公民館管理事業	15,937	15,407	15,207	継続
15	北朝霞公民館管理事業	16,175	13,080	13,173	継続
16	図書館管理事業	35,020	32,892	36,965	継続
17	図書館北朝霞分館管理事業	2,734	3,399	3,646	継続
18	博物館管理事業	46,715	41,405	41,296	継続
19	施設改修事業（公民館）	86,697	47,278	254,157	継続
20	施設改修事業（博物館）	30,053	7,028	152,686	継続
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		667,929	575,982	952,728	

総コスト（事業費＋人件費）の 経年変化 単位：千円	R4年度	R5年度	R6年度（見込み）
	667,929	575,982	952,728

6 現状と課題の分析

公民館、図書館、博物館いずれも、引き続き適切な施設の維持管理を行うとともに、情報ツールや学習方法が多様化している中、どの年齢層にも魅力ある事業の企画などにより、地域における生涯学習活動の拠点として努める必要がある。

7 今後の展開

施設の老朽化対策を計画的に実施し、より安全で快適に施設が利用できるように取り組む。
デジタル化の推進など、市民ニーズの適確な把握に努め、公民館、図書館、博物館における市民サービスのあり方を考えていく必要がある。

8 行政と市民の役割分担

各施設の管理維持及び施設運営は、行政が主体となり実施する。各課の主催事業は、アンケートなどによる市民の声を反映させながら実施する。

9 所管部の総括

今後も適切な施設運営に努め、地域の生涯活動の拠点として、市民ニーズを的確に把握し、新たな取組を検討するなど、利用者数、来館者数等の増加を図れるよう、市民満足度の向上に努める必要がある。

331 スポーツ・レクリエーション活動の推進



担当課 生涯学習・スポーツ課
関連課 —

目 指 す 姿

誰でも いつでも どこでも楽しめる生涯スポーツ社会の実現が図られ、市民が日々スポーツ・レクリエーションに親しんでいる。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P90》

指標 1

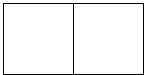


週 1 回以上スポーツを行っている人の割合（％）

週 1 回以上スポーツを行っている人の割合

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
—	—	—	60.0

指標 2



—

—

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

- ・東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーを引き継ぎ、市民スポーツ教室として「ボッチャ教室」を開催した。
- ・パリ2024オリンピック出場者・メダル獲得者の懸垂幕を産業文化センターへ掲出した。
- ・日本ライフル射撃協会、埼玉県ライフル射撃協会等の協力を得て、「ビームライフル・ビームピストル スポーツ射撃体験会」を開催した。

【継続】

- ・多くの市民に対しスポーツの機会を提供するため、市民スポーツ大会（旧・市民体育祭）やロードレース大会等のイベントを開催した。
- ・スポーツ推進審議会、スポーツ推進委員会議を開催し、スポーツ・レクリエーション関係者や専門家の知見を得て、今後の各種スポーツ施策の方向性等について検討を行った。
- ・スポーツ協会、市民総合スポーツ大会実行委員会に対し補助金を交付し、運営を側面から支援するとともに、各団体と連携して事業を展開した。
- ・市民体育振興奨励補助金、青少年スポーツ振興補助金を交付し、市民・団体のスポーツ活動を支援するとともに、市民スポーツの振興に繋げた。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【外部評価委員会】

市民スポーツ大会の参加地区数は90近い自治会町内会数に対し10程度と少なく、市民全体の参加とは乖離しているが、都内などの自治会組織率が低い団体での運動会の開催状況について調査してはどうか。

【スポーツ推進審議会】

- ①今後、部活動と社会教育の連携が必要となるが、具体的なアイデアはあるか
- ②部活動の地域移行には、責任の所在など課題もあるが、大きな方向性を考えなければならない
- ③ロードレース大会の市内中学生の参加促進を。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

市民スポーツ大会、ロードレース大会など大規模なイベントのほか、ウォークラリー大会、市民スポーツ教室及び小学生スポーツ教室等をおおむね事業計画どおりに実施することができた。

また、スポーツ推進審議会、スポーツ推進委員会議を例年どおり開催し、各委員からいただいた御意見のうち、施策や事業に取り入れることが可能なものについては、反映できるように努めたことや、各種補助金についても引き続き交付を継続できたことから、概ね順調であると判断する。

【外的要因】

特になし

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

- ・働き方改革や新しい生活様式が広まり、仕事以外の生きがいや交流の場が求められ、スポーツがその役割を期待されている。
- ・平均寿命が延びている中で、単なる寿命の長さではなく、健康で長生きすること（健康寿命）がクローズアップされている。
- ・中学校の部活動の在り方について、指導者となる地域人材や活動場所の確保などが課題である。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	スポーツ振興事業	18,404	18,440	20,794	継続
2	スポーツ団体等補助事業	12,048	12,135	14,826	継続
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		30,452	30,575	35,620	

総コスト（事業費＋人件費）の
経年変化 単位：千円

R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
30,452	30,575	35,620

6 現状と課題の分析

- ・市民がスポーツに親しむきっかけ作りとして、事業内容や周知方法を検討する必要がある。
- ・体育施設の利用率は上昇傾向にある一方、施設数やスペースは限られているため、効率的な利用方法を検討するとともに、公園や広場など、身近な場所のできる運動の紹介なども必要である。

7 今後の展開

- ・第2期朝霞市スポーツ推進計画において目標として掲げている「20歳以上の市民のうち、60%が週1回以上スポーツを行うこと」を目指し、各種施策により、市民がスポーツに触れる機会を提供し、「みる・ささえる・つなげる」スポーツから「する」スポーツにつなげていく。
- ・体育施設の指定管理者である文化・スポーツ振興公社との連携を深め、事業の内容を充実させるとともに、市民への啓発を強化する。

8 行政と市民の役割分担

- ・スポーツ協会やスポーツ関係団体、自治会・町内会などとの連携を図るとともに、市民の意見を取り入れながら、効果的に事業を展開していく。

9 所管部の総括

主要事業である市民スポーツ大会、ロードレース大会、ウォークラリー大会のほか、各種教室などをほぼ予定通り開催できた。
各種大会、事業等は、市民の間にスポーツを普及し、市民の親睦と健康増進につながり、スポーツ・レクリエーションの振興を図る上で重要なものである。参加者アンケートにより寄せられた意見・要望を踏まえ、関係団体等と連携を図り、生涯スポーツ施策の推進に努めたい。

341 歴史や伝統の保護・活用

担当課 文化財課
関連課 —



目 指 す 姿

市民が地域の歴史や文化財について身近に接する機会が増え、次世代に地域文化が歴史や伝統とともに継承され、郷土に対する愛着や文化財保護の理解と認識が深まっている。

まち・ひと・しごと目標 基本目標 2 地域の特色を生かし魅力にあふれた選ばれるまちをつくる
(イ) 市民の地域に対する誇りと愛着の醸成

《後期基本計画冊子 P92》

指標 1

博物館展示回数（回）

博物館のテーマ展、企画展、ギャラリー展等の開催回数

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
7	7	7	6

《まち・ひと・しごと P36》

指標 2

博物館を授業等で使用した市内小中学校数（校）

博物館を授業等で使用した市内小中学校数

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
15	15	15	15

1 実 施 内 容

【新規】

・テーマ展示「池田幹雄追悼展」の開催。

【継続】

- ・各種媒体を通じての文化財に関する普及啓発。
- ・文化財保護関係団体への補助金交付。
- ・指定文化財の柁塚古墳歴史広場、湧水代官水、広沢の池、二本松の保護、管理。
- ・埋蔵文化財の確認調査(試掘調査)、発掘調査、整理、資料作成、出土品保存処理、調査報告書刊行。
- ・埋蔵文化財センターの維持管理。
- ・重要文化財旧高橋家住宅の維持管理、活用事業8回、年中行事展示13回。
- ・博物館運営事業

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【文化財保護審議会】小学校での埋蔵文化財出土遺物展示状況などについて、定期的な見直しも必要ではないか。
【博物館協議会】博物館の来館者数は昨年に比べて増加しているが、更なる増加を目指すため企画展や各種講座等のPRを今後も積極的に行っていただきたい。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

指標 1 については、目標を達成できている。
指標 2 については、目標を達成できている。

なお、埋蔵文化財調査件数について、市内開発事業の増加に伴い、目標値2件に対し、令和4年度9件、令和5年度4件、令和6年度4件となっており、目標を上回る状態が続いている。

【外的要因】

博物館法の改正により必要とされる事業についても計画し取り組むとともに、新たな事業展開も模索しながら取り組む。

4 必 要 性

1 2 3 ④ … 社会的なニーズは増加傾向にある

博学連携での必要性をはじめ、文化財などの歴史資源を観光資源として使用しようとする動きが、博物館法の改正を含め、活発化してきており、地域の歴史、文化や文化財に対する意識が高まってきている。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	旧高橋家住宅管理運営事業	14,627	14,881	15,998	継続
2	指定文化財等保護管理事業	14,952	22,537	14,164	継続
3	文化財保護普及事業	6,822	6,926	7,295	継続
4	埋蔵文化財センター管理事業	8,791	9,089	9,585	継続
5	埋蔵文化財調査保存事業	36,776	38,251	38,272	継続
6	博物館運営事業【再掲】	－	－	－	継続
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		81,968	91,684	85,314	

総コスト（事業費＋人件費）の
経年変化 単位：千円

R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
81,968	91,684	85,314

6 現状と課題の分析

博物館の開館から28年経ち、組織改編により文化財保護係と併合して文化財課となり17年が経過する中で、施設や機器の経年劣化等により、文化財の十分な活用が図れない状況にある。これらの文化財を保存し広く活用できるよう、今後も施設改修や機器の更新も含め、適切な保存環境の整備及び調査、整理、保存措置等を行う必要がある。

7 今後の展開

博物館法改正の趣旨に鑑み、文化財の保護・管理とともに、文化財を市の特徴を示すプロモーションとして使用できるよう、引き続き、関係各課との情報共有を行っていく必要がある。

8 行政と市民の役割分担

（市）・旧高橋家住宅で、重要文化財の保護に従事するボランティアを育成する。・歴史や伝統の保護・活用のために活動している市民団体について、補助金を交付し、必要に応じて相談に乗るとともに、関連情報の提供や活動支援を行う。・博物館で、学芸員と研究団体が連携し、調査等を行う。
（市民）・旧高橋家住宅登録ボランティア・文化財保護関係団体・博物館講座室利用団体

9 所管部の総括

指定文化財について、定期的に状況観察を行い、必要に応じた措置を施し維持管理できたこと、コロナ禍が収束し、以前のような事業展開ができたことは大きな成果と考える。今後においても適切な資料保存を行うとともに、地域的特色について学術的な調査研究を進め、後世に文化財・歴史を伝授するよう努めたい。

342 芸術文化の振興

担当課 生涯学習・スポーツ課
関連課 —



目 指 す 姿

市民が芸術文化活動の成果を発表できる場と機会を得るとともに、より身近で優れた芸術文化に親しめる機会が提供されている。
各種団体やグループをネットワーク化し、市民の自主的な活動の充実と活性化をはかり、芸術文化に感心を持つ市民の活動が促進されている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P92》

指標 1

文化祭入場者数（人）

朝霞市文化祭の入場者数

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
8,030	8,766	8,496	14,500

指標 2

—

—

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

展示や発表、大会等の様々な手法で、芸術文化事業を開催することができた。団体や市民の方と協力し、地域固有の文化や芸術・文化に親しむ機会を提供し、芸術文化への意識の高揚を図ることができた。

【継続】

令和6年度は、「芸術文化展」、「市民芸能まつり」、「文化祭」ほか、夏休み親子陶芸教室といった芸術文化事業を全て実施することができた。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【外部評価委員会】

・市の文化祭は、参加者の年齢層が高いため、それだけで市全体の文化の在り方を測ることは難しいと感じている。動画やイラストの投稿など、若い人は若い人なりに文化活動を行っており、文化がないわけではないのに、それが可視化されないと困るので、文化活動の進捗の測り方について、検討してもらいたい。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

文化協会と共催する芸術文化展、文化祭などの展示、発表部門のほか、夏休み親子陶芸教室など、芸術文化事業を実施することができた。文化事業については、秋季のイベントが増え、日程が重なり、参加者が減少した事業もあったが、活動の成果を発表する機会を提供し、芸術文化に親しむ機運を高めた。

【外的要因】

朝霞の森やシンボルロードを会場とした屋外での各種イベントが多く行われるようになった。

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

文化や芸術に親しみ取り組んでいくことで、暮らしや生活に豊かさをもたらし、心のゆとりにつながる。芸術文化に触れ合うことで、市民それぞれの交流機会ともなり、コミュニティの活性化にもつながるものと考えられ、その必要性は大きい。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	芸術文化振興事業	12,640	13,557	9,113	継続
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		12,640	13,557	9,113	

総コスト（事業費＋人件費）の
経年変化 単位：千円

R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
12,640	13,557	9,113

6 現状と課題の分析

朝霞市文化協会を中心とした、芸術文化事業への関心が低くなってきている。

7 今後の展開

引き続き文化協会と連携し、関連する団体等とも協働するなど、子どもから高齢の方、また、障害のある方など全ての方が芸術文化に親しむことで、豊かなまちづくりにつながるよう、引き続き、芸術文化の振興と地域文化の継承に努めていく。

8 行政と市民の役割分担

市は、文化協会との協働により、文化祭や芸術文化展、市民芸能まつりを開催する。

9 所管部の総括

文化祭事業、夏休み親子陶芸教室などを開催し、多くの市民の参加があった。体験や活動の成果発表の場や、芸術文化に親しむ機会を提供できた。芸術文化に親しむ市民は多く、市の活性化にもつながるものであることから、芸術文化施策をより推進していく。

343 地域文化によるまちづくり



担当課 地域づくり支援課
関連課 政策企画課、産業振興課

目 指 す 姿

朝霞市民まつり「彩夏祭」などの地域イベントが市民の手で継続して開催され、地域文化が継承されており、郷土に対する愛着や誇りを持てるまちとなっている。

まち・ひと・しごと目標 基本目標 2 地域の特色を生かし魅力にあふれた選ばれるまちをつくる
(イ) 市民の地域に対する誇りと愛着の醸成

《まち・ひと・しごと P36》

指標 1 【まち・ひと・しごと】



地域イベント参加者数（人）

本市を代表する四季のイベント（黒目川花まつり、彩夏祭、朝霞アートマルシェ、北朝霞どんぶり王選手権）の参加者数

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
480,000	1,071,000	797,000	822,000

指標 2

—

—

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

【継続】

- ・コミュニティ協議会に補助金を交付。【運営費補助金405千円、市民まつり補助金43,719千円】
- ・彩夏祭のよさこい鳴子踊りに参加する小・中学校に補助金を交付。【市内小・中学校 5 校に対し合計1,495千円】
- ・コミュニティ協議会及び市民まつり実行委員会の事務局運営。
- ・朝霞市民優待の実施（佐久市、東根市、西伊豆町/ホテル・旅館の宿泊料10%割引、瑞浪市/3館共通パスポート配布）

2 審議会等第三者機関の評価・意見

該当なし

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

指標 1 の本市を代表する四季のイベント（黒目川花まつり、彩夏祭、朝霞アートマルシェ、北朝霞どんぶり王選手権）の参加者数について、目標までやや遅れているものの、地域イベントが市民の手により継続して開催されている。

【外的要因】

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

地域文化を育て、発信し、まちを盛り上げるためにも彩夏祭をはじめとする四季のイベントの果たす役割は重要であり、ふるさと朝霞の文化として、市民の期待度は高いと考えられるため、引き続き、地域活性化のために積極的に支援する必要がある。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	コミュニティ推進事業【再掲】	-	-	-	継続
2	国際・都市間交流事業	2,854	3,633	3,278	継続
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		2,854	3,633	3,278	

総コスト（事業費＋人件費）の
経年変化 単位：千円

R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
2,854	3,633	3,278

6 現状と課題の分析

人口の流出入が多く、ふるさと意識が希薄になりがちで、かつ、独自の文化が育ちにくい状況にある。今後においては、ふるさと意識を形成し、市民が地元に着と誇りを持てるよう、「彩夏祭」「黒目川花まつり」「朝霞アートマルシェ」「どんぶり王選手権」などの地域独自の文化を、いかに市民の間に根付かせていくかが課題である。

7 今後の展開

「彩夏祭」「黒目川花まつり」「朝霞アートマルシェ」「どんぶり王選手権」などの地域独自の文化が市民の間に根付くよう積極的に情報発信を行っていく。

8 行政と市民の役割分担

四季のイベントは、市民が主役のイベントであり、主催団体である市民まつり実行委員会や商工会等が主導し、市がサポートする体制は変わらないが、市が担っている役割と市民が担っている役割が適当であるか両者で確認していく。

9 所管部の総括

市民まつりなど地域イベント活性化のため、市としても必要な支援をしていく。

411 住みよい環境づくりの推進

担当課 環境推進課
関連課 みどり公園課



目 指 す 姿

住みよい環境づくりを推進するため、自然環境が保全・再生され、生活環境が保全され、動植物の適正な保護と管理が行われている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P98》



指標 1

典型 7 公害苦情受付件数（件）

環境基本法で定義されている、騒音・振動・悪臭などの典型 7 公害に対する苦情件数

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
9	7	5	6

指標 2

—

—

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

【継続】

- ・合併処理浄化槽の設置や適正な維持管理の周知啓発。
- ・市民団体との協働及び活動支援、環境審議会等の開催。
- ・緑化推進会議の開催、緑地管理ボランティアの支援。
- ・みどりのまちづくり基金募金活動、PR活動の実施。
- ・生産緑地地区の指定や解除、変更等の事務の実施。
- ・大気・水質環境調査、道路の騒音・振動に係る調査及び、水質汚濁防止法に関する事業所対立入調査の実施。
- ・畜犬登録事務や野生鳥獣などの相談及び対処等の実施。
- ・スズメバチの巣の駆除、ムクドリの追い払いを実施。
- ・きれいなまちづくり運動や不法投棄対策などの実施。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

・指標 1 については、苦情件数が年々減少傾向にあり、目標を達成することができたが、根絶には至っておらず、今後も継続して公害の苦情件数が0件となるよう、取り組みを進めていく。
・各実施事業については、合併処理浄化槽設置促進事業や緑化推進事業などの一部で目標数値を下回る指標もあったが、概ね順調に実施することができた。

【外的要因】

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

自然環境や生活環境の改善など、住みよい環境づくりに対してのニーズは継続的に高く、今後も同様に続くものと考えられる。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	合併処理浄化槽設置促進事業	5,172	4,464	4,477	継続
2	環境推進総務事務事業【再掲】	—	—	—	継続
3	緑化推進事業【再掲】	—	—	—	継続
4	みどりのまちづくり基金積立事業【再掲】	—	—	—	継続
5	生産緑地管理事業【再掲】	—	—	—	継続
6	環境情報収集及び公害監視事業	17,284	17,416	17,141	継続
7	鳥獣・害虫管理事業	14,449	16,992	17,947	継続
8	環境美化事業【再掲】	—	—	—	継続
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		36,905	38,872	39,565	

総コスト（事業費＋人件費）の
経年変化 単位：千円

R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
36,905	38,872	39,565

6 現状と課題の分析

・大気・水質環境調査などの結果は安定した数値を示しているが、今後も定期的な監視と対策を実施していく必要がある。

・環境の保全、防災、景観形成、レクリエーションなどの機能を持つ緑の減少傾向を止めるため、積極的に保護・創出する必要がある。

・環境を改善するために、市は市民、事業者に対して意識啓発や活動支援を行うことが重要である。

7 今後の展開

・自然環境や生活環境の状況を把握するため、引き続き環境調査等を行い、調査結果を基に環境の悪化や公害の発生を未然に防止するとともに、市民等に対し情報提供を行う。

・緑地の保全及び緑化の推進を図るとともに、自然環境、生物多様性等についての情報収集や発信に努めていく。

8 行政と市民の役割分担

自然環境・生活環境を保全していくためには、市、市民・市民団体、事業者等の協働は欠かすことができない。それぞれが役割を理解し、環境に負荷を与えない行動を実践していく。

9 所管部の総括

市、市民、事業者がそれぞれの役割に応じて協働で住みよい環境づくりの推進に関わっていくことが重要である。自然環境の保全・再生、生活環境の保全、動植物の適正な保護と管理が必要であることを共通認識としていけるような、周知啓発に努めていく。また、新たな課題に対応した第3次環境基本計画の施策を、着実に推進していく。

412 低炭素・循環型社会の推進



担当課 環境推進課
関連課 資源リサイクル課

目 指 す 姿

低炭素・循環型社会を推進するため、資源の有効活用などの環境に配慮した取組、温室効果ガスの排出抑制の取組が行われている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P98》



指標 1

市事務事業のCo2排出量の削減率（％）

市の事務事業から排出されるCo2排出量の削減率(H25年度比)

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
-4.47	-12.08	-15.0	-8.6

指標 2

—

—

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

【継続】

- ・朝霞市創エネ・省エネ設備設置費補助金交付要綱に基づき補助金を交付した。
- ・会員登録された市民から不要な衣類や雑貨等を出品してもらい、販売して清算した。
- ・リサイクルプラザ企画運営協議会と市の協働により各種講座等を開催し、ごみ減量等の情報を発信した。
- ・市内の家庭で再生可能な不要家具類を引き取り補修して、毎月、抽選により展示販売を実施した。
- ・地球温暖化防止に係る周知啓発の実施（のぼり旗の設置、広報・HP、エコライフDAY・WEEKチェックシートの配布回収）など。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

- ・指標 1 については、現状で正確な数値を算出できないため、令和 6 年度の指標は目標数値となっている。
- 引き続き温室効果ガス削減の目標達成のため、意識醸成に努めるとともに、啓発活動を継続していく。
- ・各実施事業については、リサイクルプラザ運営事業、リサイクルショップ運営事業などで、目標数値を下回る指標があったが、概ね順調に実施することができた。
- 特に、地球温暖化対策推進事業では、創エネ・省エネ設備設置補助については、執行率ほぼ 1 0 0 %であり、また市役所内に設置した電気自動車用急速充電器の利用件数についても、大幅に目標を上回ることができた。

【外的要因】

4 必 要 性

1 2 3 ④ … 社会的なニーズは増加傾向にある

国は2050年カーボンニュートラル実現に向け取組を進めており、市においても2030年CO2排出量46%削減を目指し動いている。今後においても、再生可能エネルギーの普及やリサイクル事業、地球温暖化対策事業のニーズは増加傾向となることが考えられる。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	再生可能エネルギー普及推進事業	10,072	43,044	13,661	継続
2	リサイクルショップ運営事業	10,921	11,569	13,550	継続
3	リサイクルプラザ運営事業	12,182	12,459	13,783	継続
4	リサイクルプラザ管理事業	15,209	15,408	16,452	継続
5	リサイクル家具類販売事業	6,250	6,439	6,502	継続
6	地球温暖化対策推進事業	8,442	7,819	7,929	継続
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		63,076	96,738	71,877	

総コスト（事業費＋人件費）の 経年変化 単位：千円	R4年度 63,076	R5年度 96,738	R6年度(見込み) 71,877
------------------------------	----------------	----------------	---------------------

6 現状と課題の分析

・CO2の削減のためには、意識醸成等の啓発とともに、省エネ設備等の導入が不可欠であるが、財政上の問題もあり直ぐに実施することは難しい。そのため、施設の大規模改修等の際に、再エネや省エネ設備の導入を促進していくことが課題となる。

・リサイクルプラザ企画運営競技会と市の協働による各種講座の開催については、実施方法などを検討し、多くの市民の方に利用いただけるよう検討を行う。

7 今後の展開

・脱炭素・循環型社会の実現に向け、地球温暖化対策等をさらに推進するため、第3次朝霞市環境基本計画や地球温暖化対策実行計画の施策を、着実に推進するとともに、カーボンニュートラル宣言についても検討する。

・循環型社会を推進するための啓発活動や情報発信を継続し、市民が行う省エネ対策等に対する支援を継続するとともに、創エネ・再エネ設備設置費補助金の内容拡充の検討を行う。

8 行政と市民の役割分担

脱炭素・循環型社会の構築に向けて、全ての人が一体となって協力し合い、温室効果ガスの排出の削減や省エネ・省資源等に取り組むことが大切である。市は率先して環境行動をとり啓発を進め、市民や事業者等はそれぞれの役割の中で、積極的に脱炭素・循環型社会の推進に取り組む必要がある。

9 所管部の総括

脱炭素・循環型社会は、市民・事業者・行政が一体となって取り組まなければ達成することができない。カーボンニュートラル実現に向けて、産業、暮らし、交通、公共等あらゆる分野において取り組みを一層加速させる必要がある。

温室効果ガスの削減等を推進するための地球温暖化対策実行計画を着実に実行することにより、環境に負荷をかけないまちづくりを進める必要がある。

413 環境教育・環境学習の推進



担当課 環境推進課
関連課 —

目 指 す 姿

環境学習・環境教育を推進するため、市民などの環境意識が高揚し環境美化を推進するための取組が行われている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P98》



指標 1

環境美化ポスターの応募者数（人）

市内の小学生を対象に、環境美化をテーマに募集しているポスターの応募者数

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
229	251	272	200

指標 2

—

—

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

【継続】

- ・環境審議会を2回開催した。
- ・市民団体との協働及び活動支援を行った。
- ・環境施策実施年次報告「朝霞の環境」及び「朝霞市環境基本計画 実施計画」を発行した。
- ・市民等を交えた市内一斉清掃活動である「きれいなまちづくり運動」を、春と秋の2回実施した。
- ・環境美化推進員による市内美化活動及び、路上喫煙・ポイ捨て防止キャンペーンを実施した。
- ・環境美化活動等に貢献した団体等を表彰を行うため自治会等に推薦を依頼した。
- ・不法投棄監視パトロール等の不法投棄対策を実施した。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【環境審議会】

- ・（「朝霞の環境」及び「環境基本計画実施計画」が、第3次朝霞市環境基本計画に伴い、内容や掲載順が変更になったため）体裁を整えたり、するなどの工夫を施し、分かり易いものにして欲しい。また、ポスターなど表彰にとどまらず、作品の積極的な活用を図ってほしい。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

- ・指標1については、年度目標を大幅に上回ることができた。今後においても、小・中学生が環境問題に対して関心を持ってもらえるよう、継続して環境学習や環境教育の機会の提供に努める。
- ・各実施事業については、例年どおりに実施することができた。

【外的要因】

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

環境問題の多くは、日常生活や事業活動等に起因していることから、すべての人が各々の立場で取り組みを進めることが必要であるため、今後も継続して環境教育や環境学習を推進して行く必要がある。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	環境推進総務事務事業	12,607	14,040	12,726	継続
2	環境美化事業	19,970	21,273	22,382	継続
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		32,577	35,313	35,108	

総コスト（事業費＋人件費）の
経年変化 単位：千円

R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
32,577	35,313	35,108

6 現状と課題の分析

広報あさかや市ホームページへの環境関連記事の掲載、市環境施策実施年次報告書「朝霞の環境」の発行や「きれいなまちづくり運動」の開催等を通じて、市民や事業者の環境意識の向上を図っているが、効果が見えにくい。そのため、市民等が必要としている環境情報を的確に把握し、環境学習・環境教育の推進に反映させていることが課題である。

7 今後の展開

- ・第3次朝霞市環境基本計画の施策を着実に進めるとともに、引き続き、市民等への情報提供を積極的に行い、市民団体等への活動支援などの協働を継続する。
- ・市民等への意識啓発や関係機関との連携を図り、不法投棄監視パトロールや美化推進委員による美化活動等を継続し、環境美化の推進に取り組んで行く。

8 行政と市民の役割分担

環境問題の多くは、すべての人の日常生活や事業活動等によって引き起こされていることから、各々の立場で環境問題への取り組みを進める必要がある。市は積極的に環境学習などの機会の提供と啓発を行っていく。また、市、市民、事業者で密接に連携しながら、継続した環境保全活動に取り組んで行く。

9 所管部の総括

環境学習・環境教育を推進していくためには、市民や事業者と環境情報や環境問題を共有する必要がある。また、市民等の環境意識が向上するような取組の継続が大切である。そのためには、市民等へのわかりやすい情報提供を積極的に行い、市民団体等への活動支援を継続するとともに、その内容について改善していく必要がある。

421 ごみの減量・リサイクルの推進



担当課 資源リサイクル課
関連課 —

目 指 す 姿

ごみの減量及び再資源化の推進を図ることにより、循環型社会が構築されている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P100》

指 標 1

市民一人当たりごみ排出量（g/日）

限られた資源を有効に活用し、環境への負荷を低減させるため、ごみの減量化を目指す。

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
558	532	528	462

指 標 2

—

—

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

- ・製品プラスチック及び二次電池の再資源化を開始した。
- ・街頭啓発活動を市主催イベント開催時に併せて2回実施した（有害ごみの分別について啓発）。
- ・広報あさかにごみの分別方法についてのコラムを継続掲載した。
- ・こども用クリーンセンターパンフレットをリニューアルし、施設見学者へ配付した。

【継続】

【啓発事業】

- ・6月は環境月間に合わせて、水切りネットを配布。7月は小学生向けに3R啓発事業(手すきはがき作り)実施。10月は3R推進月間として、ごみの減量、適正排出の啓発。11月はごみ分別キャンペーンとして、適正分別の啓発を実施。
- ・市民活動団体と協働で作成した「ごみ分別アプリ」の情報発信を行った。
- ・市ホームページに、ごみ分別辞典の5か国語版(英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・ベトナム語)を掲載したほか、再資源化の状況等の周知・啓発に努めた。
- ・事業系ごみ削減の啓発を行った。

【地域リサイクル活動推進補助金】

- ・資源物回収団体へ補助金を交付した。

【リサイクルプラザにおける啓発事業】

- ・フードドライブ、制服リサイクル、環境関連図書の貸出などの事業を実施した。
- ・市内の家庭から引き取った不用品家具類をリサイクルプラザのシルバー工房で清掃・補修し、展示販売を行った。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【廃棄物減量等推進審議会】

- ・ごみの総排出量は減少しているが、引き続き、分別啓発・リサイクルの推進に向けた取り組みが必要である。
- ・二次電池やプラスチック製品等の適正排出に関する問題や、再資源化の実績等の啓発活動に注力する必要がある。
- ・事業ごみの減量化に向けて、立入調査による実態把握や適正排出の指導等に努めること。

【外部評価委員会】

- ・リ3 R推進月間や分別キャンペーンの時期に市が行っている取組は、市民には見えてこないもので、例えば、金銭的にいくら分のリサイクルができたなど、具体的なことが分かるようにするとよいのではないか。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

- ・事業ごみ排出量は増加しているが、家庭ごみは減少している。
- ・市民で構成されたリサイクルプラザ企画運営協議会との協働による講座を3回開催した。

【外的要因】

社会情勢がコロナ禍以前に戻ってきたこともあり、家庭ごみは減少しているが、事業系ごみは増加傾向が続いている。

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

- ・循環型社会の構築には、市民や事業者の協力が必要不可欠であるため、意識啓発の必要性は高い。
- ・今後もごみの適正分別、再資源化を推進していく必要がある。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	ごみ減量・リサイクル推進啓発事業	5,654	6,828	6,465	継続
2	廃棄物減量等推進審議会運営事業	3,320	4,776	4,758	継続
3	リサイクルショップ運営事業【再掲】	-	-	-	継続
4	リサイクルプラザ運営事業【再掲】	-	-	-	継続
5	リサイクルプラザ管理事業【再掲】	-	-	-	継続
6	リサイクル家具類販売事業【再掲】	-	-	-	継続
7	ごみ減量・リサイクル推進補助事業	12,219	11,207	11,814	継続
8	塵芥処理事務事業	8,806	10,907	10,034	継続
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		29,999	33,718	33,071	

総コスト（事業費＋人件費）の
経年変化 単位：千円

R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
29,999	33,718	33,071

6 現状と課題の分析

- ・家庭ごみ排出量は減少傾向であるが、事業ごみは増加傾向が続いている。
- ・単身世帯や外国人居住者の集合住宅において、分別不良のまま集積所に排出されることが多いため、排出ルール の 啓発や、市民・事業者・行政の3者による取組みを引き続き行っていく必要がある。
- ・二次電池が原因と思われる火災が全国で相次いでいることから、有害ごみの適正な分別排出の啓発が必要である。

7 今後の展開

- ・第6次基本計画に基づき様々な施策を展開し、ごみの減量及び再資源化を推進していくほか、適正分別の啓発にも努めていく。
- ・分別の徹底による再資源化への取組みや地域リサイクル活動補助金による集団回収の利用促進を図っていく。
- ・食品ロスの排出抑制と減量化の推進について、市民及び事業者の意識を高め、家庭及び事業所からの排出抑制と減量化に取り組んでいく。

8 行政と市民の役割分担

- ・市民・事業者・行政が一体となって、循環型社会の構築を目指す。
- ・市民で構成された「リサイクルプラザ企画運営協議会」との協働による講座を開催する。

9 所管部の総括

家庭ごみは減少傾向が続いているが、ごみ処理広域化に向けて一層のごみ減量・再資源化が必要となるほか、増加傾向にある事業ごみの削減のため、今後の社会情勢などに注視しながら、状況に応じた施策展開を進めていく。

422 ごみ処理体制の充実



担当課 資源リサイクル課
関連課 —

目 指 す 姿

・効率的な収集運搬体制の確立を図り、ごみ処理施設の適切な維持管理及び運転管理を行うとともに、計画的な最終処分場の確保に努めることにより、ごみ処理体制の充実が図られている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P100》



指標 1

ごみ焼却処理施設の稼働率（％）

適切な保全により処理能力低下を防止し、H26～30年度平均値の97.6%に対して3%以上低下させないよう維持する（稼働

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
98	98	99	95

指標 2

—

—

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

【継続】

- ・効率的な収集体制を維持し、家庭ごみの収集運搬業務を委託により実施した。
- ・中間処理後、再資源化を実施した。
焼却灰3,314t(埋立処理943t、再資源化処理2,371t)
不燃残渣等2,040t(埋立処理119t、資源化処理1,921t)
- ・ごみ焼却処理施設の各種修繕・工事、その他各種設備機器の点検整備を実施した。
- ・朝霞和光資源循環組合へ、新ごみ焼却処理施設建設に必要な費用を負担した。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

・効率的な収集体制を維持し、ごみ処理施設の安全かつ適切な運転と維持管理を行うとともに、最終処分場の確保や再資源化に努めるなど、ごみ処理体制の充実を図る。

【外的要因】

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

- ・可燃ごみと粗大ごみ処理施設は、新施設稼働開始までの間、現施設を適切に維持管理する必要がある。
- ・プラスチック類処理施設とあき缶資源化施設については、当面の間広域化の対象外施設となっているため、計画的な工事等により、令和12年度以降も安定的に稼働する必要がある。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	クリーンセンター維持管理事業	145,203	128,234	110,823	継続
2	可燃ごみ処理事業	903,039	789,861	768,214	継続
3	資源ごみ処理事業	406,832	406,143	433,538	継続
4	清掃総務事務事業	8,914	11,040	12,544	継続
5	粗大ごみ処理事業	105,415	97,674	105,230	継続
6	朝霞地区一部事務組合負担事業（し尿処理）	25,805	28,255	29,839	継続
7	不燃ごみ処理事業	120,077	122,967	122,400	継続
8	塵芥処理事務事業【再掲】	-	-	-	継続
9	朝霞和光資源循環組合負担事業	112,141	126,398	128,243	継続
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		1,827,426	1,710,572	1,710,831	

総コスト（事業費＋人件費）の
経年変化 単位：千円

R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
1,827,426	1,710,572	1,710,831

6 現状と課題の分析

- ・集積所へ不適切に排出された不法投棄物は、そのまま放置されると集積所周辺の生活環境が悪化するため、集積所パトロールや啓発等により、適正な排出を促す必要がある。
- ・ごみ処理施設の状況を把握し、計画的な点検、修繕や工事等を実施し、適切に維持管理する必要がある。

7 今後の展開

- ・効率的な収集運搬体制を維持し、ごみ処理施設の安全かつ適切な運転と維持管理を行うとともに、最終処分場の確保に努めるなどごみ処理体制の充実を図る。
- ・施設設備の計画的な点検、修繕、工事等を実施し現ごみ処理施設の有効活用に取り組む。
- ・引き続き、朝霞和光資源循環組合へ、新ごみ処理施設建設に必要な費用を負担する。

8 行政と市民の役割分担

- ・行政は、市民へごみの適正排出について啓発し、市民は適正排出に努める。
- ・行政は、事業者へ適正排出や再資源化について啓発し、事業者は適正排出や資源化に努める。

9 所管部の総括

- ・和光市とのごみ処理広域化については、再度入札手続を行い事業者を決定した。今後、着工に向けた準備を進め、令和12年度の新施設稼働開始を目標に業務を進めていく。
- ・新ごみ処理施設が稼働するまでの間、安定的なごみ処理を実施するとともに、焼却灰などの再資源化を進め環境への負担軽減を図る。

511 市街地の適正な利用



担当課 まちづくり推進課
関連課 道路整備課、産業振興課

目 指 す 姿

まちの限られた土地資源が有効に配分され、鉄道駅周辺など公共交通機関の利便性の高い地域を中心に市街地がまとまり、住宅系、商業、業務系、工業系のそれぞれの土地利用が適正に行われ、健康で文化的な都市生活及び機能的な都市活動を行えるまちとなっている。

まち・ひと・しごと目標 -

指 標 1



区画道路整備延長（m）

旧暫定逆線引き地区の区画道路の整備済み延長と整備率

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
853	853	853	3,756

指 標 2

-

-

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

・公共空間利活用提案委託の活用により、市内の公共空間の利活用の推進及び担い手の育成に着手した。

【継続】

- ・北朝霞・朝霞台地区エリアプラットフォーム構築が完了した。
- ・朝霞駅南口周辺地区交通安全対策基本構想策定が完了した。
- ・駅西口富士見通線等のウォークアブル空間整備に向けた設計が完了した。
- ・道路、歩道用地の買収及び土地開発基金への繰戻しを実施した。
- ・生活道路の拡幅整備のため、市道の改良工事を行った。
- ・都市計画審議会を開催するとともに、緑や景観の保全に努めた。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【外部評価委員会】

・今、朝霞駅前が変わってきており、北朝霞・朝霞台エリアについても未来ビジョンにとても期待しているので、官民一体となって引き続き頑張ってもらいたい。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

- ・北朝霞・朝霞台地区エリアプラットフォーム構築が完了した。
- ・朝霞駅南口周辺地区交通安全対策基本構想策定が完了した。
- ・駅西口富士見通線等のウォークアブル空間整備に向けた設計が完了した。
- ・道路整備基本計画に位置付けられた拡幅路線の買収を行うことができた。
- ・用地を買収した箇所から順次、道路改修工事設計や改良工事を実施することができた。
- ・都市計画審議会において、予定どおり審議すべき案件を付議することができた。

【外的要因】

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

- ・旧暫定逆線引き地区内の土地区画整理事業の完了により、良好な住環境の基盤整備が進み、今後も波及効果が期待される。
- ・道路整備基本計画や無電柱化推進計画に基づき、歩道整備や交通安全対策、防災面の向上など、快適な生活空間の形成が期待される。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	都市計画総務事務事業	124,599	187,638	123,397	継続
2	道路用地取得事業	207,331	205,897	172,584	継続
3	道路改良事業【再掲】	—	—	—	継続
4	都市計画マスタープラン策定事業	—	8,178	18,523	継続
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		331,930	401,713	314,504	

総コスト（事業費＋人件費）の
経年変化 単位：千円

R4年度

331,930

R5年度

401,713

R6年度(見込み)

314,504

6 現状と課題の分析

- ・厳しい財政状況等を踏まえ選択と集中の観点から効率的な道路整備を推進する必要がある。
- ・地区計画などにより、地区ごとにふさわしい良好なまちづくりを進める必要がある。
- ・橋梁、歩道橋等の整備では、長寿命化計画に基づき改修等を進める必要がある。
- ・安全な歩行空間の確保など、人中心のまちなかづくりを推進する必要がある。

7 今後の展開

- ・道路整備基本計画に基づき、歩道整備や交通安全対策のほか無電柱化や街路樹の管理等についても検討し施策を推進する。
- ・ウォーカブル推進都市として、ベンチや休憩施設の設置など、人中心の居心地が良く歩きたくなるまちなかを目指す。
- ・地区計画や土地区画整理事業など、計画的な市街地整備を支援する。

8 行政と市民の役割分担

- ・地域の実情に即したまちづくりや市街地整備を進めるとともに、先進事例の調査やコスト削減に向けた工夫、また行政・商店会等のイベント情報の発信を行う。
- ・官民連携によるまちづくりを推進し、ウォーカブル空間の整備や魅力的な商業エリアの形成などを図る。
- ・個別計画の策定や景観づくりの推進等にあたっては、市民や景観づくり団体等から意見を聴く機会を設け、市民・事業者等と連携・調整を図る。

9 所管部の総括

道路整備基本計画に基づき、道路拡幅のみならず、橋梁や歩道橋の長寿命化対策、舗装修繕、街路樹など道路緑化による緑の軸の形成や無電柱化の推進のほか、賑わいとコミュニティ形成の場としての道路空間の実現などを推進していく。今後はウォーカブル推進都市としてシンボルロードをはじめ、街路や公園など公共空間を利活用する取組を推進していくとともに官民連携のまちづくりを進めていく。

512 市街地周辺の適正な利用



担当課 まちづくり推進課
関連課 政策企画課、みどり公園課、道路整備課

目 指 す 姿

市街地の周辺に指定されている市街化調整区域では、市街化を抑制し優良な農地や良好な自然的環境を維持・保全することを基本とし、緑地・自然環境と調和した、地域特性に応じた適正な利用が図られている。

まち・ひと・しごと目標 -

指 標 1

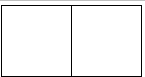


市街化調整区域の適正な土地利用（一）

目標年度において実施されている具体的な土地利用の内容

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
-	-	-	国道254号バイパス周辺の 適正な土地利用

指 標 2



-

-

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

【継続】

- ・冒険遊び場づくりをNPO法人朝霞プレーパークの会に委託
- ・都市公園において移動プレーパークを実施
- ・緑化推進会議を開催
- ・緑化推進奨励金を交付
- ・緑地ボランティアの支援
- ・シンボルロードの維持管理を行うとともに、官民連携によるイベント(アサカストリートテラス、あさか冬のあかりテラス)を実施するなど、まちなかのにぎわい創出に資する利活用を行った。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【外部評価委員会】

- ・地域経済を考える上では、道路は非常に大きな要素となっており、国道254号バイパスについても、市の将来に大きな影響を与えるものだと思うので、その扱いを戦略的に考えていくべきではないか。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

- ・シンボルロードは令和2年2月の供用開始以降、広大な緑の屋外空間として市民から親しまれ、様々なイベントを開催している。
- ・朝霞の森運営会議を開催した。
- ・農業従事者の死亡等により生産緑地の指定解除が多くなっている。また保護地区及び保護樹木の新規指定は進んでおらず、指定面積及び指定本数は増えていない。
- ・都市計画審議会に付議した案件は全て議決することができた。

【外的要因】

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

- ・樹林地や樹木の伐採が進んでおり、緑地の減少に伴う緑の保全に対する要望が増加することや、維持管理には多額の費用がかかるため、持続可能な管理には市が保全に関与するとともに、市民協働での管理についても検討していく。
- ・基地跡地に対する市民の関心を高める機運を醸成するため、朝霞の森の管理運営を市民と協働で行う必要がある。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	都市計画総務事務事業【再掲】	－	－	－	継続
2	緑化推進事業【再掲】	－	－	－	継続
3	基地跡地整備基金積立事業	1,811	1,075	1,820	継続
4	基地対策事業	1,860	2,239	2,619	継続
5	基地跡地暫定利用事業	18,103	17,916	15,486	継続
6	シンボルロード管理事業	43,062	40,505	37,698	継続
7	道路施設修繕事業【再掲】	－	－	－	継続
8	都市計画マスタープラン策定事業【再掲】	－	－	－	継続
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		64,836	61,735	57,623	

総コスト（事業費＋人件費）の
経年変化 単位：千円

R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
64,836	61,735	57,623

6 現状と課題の分析

- ・市内に残された貴重な自然を保全し有効活用するためには、市民や土地所有者との連携・協働が必要であり、意見交換会などの機会を確保していく必要がある。
- ・賑わいの創出や居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりのため、道路、公園、広場など、公共空間の有効活用について官民が連携して取組を検討していく必要がある。
- ・保護地区及び保護樹林は、本市における貴重な緑であり、保全に欠かせないものであることから、いかに存続していくか、対策の検討が必要である。

8 行政と市民の役割分担

- ・市民ボランティアを募集、育成、活用しながら市民意識を醸成し、自然の大切さと必要性を理解することで、緑や自然環境の保全、また公園の管理や運営を行っていく。
- ・シンボルロード周辺エリアについて、さらなる魅力向上に向けて、イベントの実施など官民連携や協働の取組を推進する。

7 今後の展開

- ・環境の保全、防災、景観の形成など多様な機能を持つ貴重な緑を保全していくとともに、市街地における緑化を推進していく。
- ・道路や公園など、公共空間の利活用について周辺エリアと連携しながら検討し、まちなかウォークアブルや賑わいを創出する取組を進める。
- ・国道254号バイパスの2期整備が進む中、今後の沿道のまちづくりに向けた土地利用の課題や留意点をまとめた手引き（案）について、住民等の意見を聴きながら引き続き検討していく。

9 所管部の総括

- ・市街地と自然環境との調和については、黒目川をはじめ、河川沿いの緑や水辺など優れた自然環境や優良な農地が残されており、これらをできる限り保全していくとともに、地域の状況に応じて、適切な土地利用が行われるようにしていく必要がある。
- ・道路や公園など、公共空間の利活用については、周辺エリアと連携するとともに、活用しやすい仕組み作りや場の創出、多様な方々が関心を持ち、関わりが持てるよう官民連携の取組を進めていく。
- ・国道254号バイパス沿道については、地域の活性化に資する土地利用の検討を進める。

531 まちの骨格となる緑づくり



担当課 みどり公園課
関連課 まちづくり推進課、産業振興課、農業委員会事務局

目 指 す 姿

子どもから高齢者までの幅広い世代が、都市における公園や緑のオープンスペースで自然とふれあい、レクリエーション活動、健康運動、文化活動などの活動を行っている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P118》



指 標 1

市内全域における緑被面積の割合（％）

5年ごとに調査する緑被面積調査による市内全域の緑被面積の割合

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
37	35	35	37

指 標 2

—

—

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

・現行の「朝霞市みどりの基本計画」が令和8年3月に終期を迎えることから、みどりに関する市民アンケートやワークショップを実施し、市民参加による計画改定に取り組んだ。（令和6年度、令和7年度継続事業）

【継続】

- ・市民ボランティア団体との協働による公園や緑地の維持管理。
- ・公園や緑地における倒木事故を未然に防ぐための樹木点検調査を行い、適切な維持管理を実施。
- ・緑化推進会議及び生物多様性市民懇談会の開催。
- ・グリーンインフラの考え方を取り入れた（仮称）宮戸二丁目公園及びまぼりひがし公園の整備工事を実施した。また、整備に当たっては、市民ワークショップを開催し、公園の使い方やルール作りを市民協働で実施した。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【緑化推進会議】

・「朝霞市みどりの基本計画」は朝霞市の将来のあるべき姿を示す重要な計画であるため、朝霞らしいみどりはどうなのか、質の高いみどりにするにはどうすべきかを議論し、改定作業を進めること。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

- ・指標1について、緑被面積が減少傾向ではあるが、公共施設緑地等における緑化の推進を図り、最終年度目標が達成できるよう取り組んでいる。また、「朝霞市みどりの基本計画」の策定作業においても、みどりの保全や緑化の推進について市民参加により検討している。
- ・市民ボランティア団体と協働で公園や緑地の維持管理を行っているほか、市民が主体となる公園づくりの実現に向け、（仮称）宮戸二丁目公園及びまぼりひがし公園の整備を市民協働で進めることができ、施策はおおむね順調に進んでいる。

【外的要因】

・主要な緑である樹木や樹林は、公園や街路樹、公共施設等の公共の緑と、住宅地や事業者等の民有地の緑がほぼ同量を占めており、民有地の緑も重要な存在となっている。

4 必 要 性

1 2 3 ④ … 社会的なニーズは増加傾向にある

市内における緑の保全や質の向上のほか、防災性の向上や自然との触れ合いの場の形成などにおいて必要不可欠であるグリーンインフラ機能の向上について、社会的ニーズが高まっている。これらの施策を実現するためには、「朝霞市みどりの基本計画」の改定作業を中心とし、専門家からの意見聴取や市民参加により進める必要がある。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	みどりのまちづくり基金積立事業	3,686	3,742	4,364	継続
2	緑化推進事業	34,789	62,462	40,795	継続
3	都市計画総務事務事業【再掲】	－	－	－	継続
4	生産緑地管理事業	5,208	5,388	2,909	継続
5	市民農園事業【再掲】	－	－	－	継続
6	農業委員会運営事業【再掲】	－	－	－	継続
7	公園管理事業	224,547	224,839	291,710	継続
8	公園施設改修事業	113,807	160,241	189,113	継続
9	児童遊園改修事業	9,433	9,286	11,610	継続
10	児童遊園管理事業	70,581	63,568	61,754	継続
11	都市計画マスタープラン策定事業【再掲】	－	－	－	継続
12	(仮称)宮戸二丁目公園整備事業	16,231	678,360	211,808	継続
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		478,282	1,207,886	814,063	

総コスト（事業費＋人件費）の 経年変化 単位：千円	R4年度 478,282	R5年度 1,207,886	R6年度(見込み) 814,063
------------------------------	-----------------	-------------------	----------------------

6 現状と課題の分析

・本市の主要な緑である樹木・樹林は、公園や街路樹等の公共の緑と、住宅地や事業者等の民有地の緑がほぼ同量を占めており、公共のみならず民有地の緑の保全も不可欠である。今後においては、緑の量的確保のみならず、適正な維持管理による質の向上を図る必要がある。

・新たに整備した（仮称）宮戸二丁目公園及びまぼりひがし公園について、市民との協働による維持管理を推進する必要がある。

7 今後の展開

・保護地区や保護樹木等の適正な維持管理のほか、みどりのまちづくり基金の活用や市民との協働による緑地の保全や緑化の推進に努める。

・水源のかん養、地球温暖化の防止など多面的な機能を有している生産緑地地区の保全に努めるほか、人口や土地利用の将来的な見通しを勘案し、位置や規模、目的に応じて街区公園などを計画・配置し整備を推進していく。

8 行政と市民の役割分担

・市民を主体とした緑づくりを目指すため、市民ボランティア団体による植栽などの維持管理を適切に行っていただけるよう、市において、活動に必要な資材の提供やボランティア活動の場を広げる取組みを推進する。

・保護地区や保護樹木の適正な管理を促す。

9 所管部の総括

・市全体における緑の維持保全について、市民・事業者・行政の連携や協働により推進していく。

・保護地区や保護樹木の奨励金交付や生け垣等設置における奨励補助金交付を適切に行うほか、生産緑地地区を都市農地として継続的に保全していくため、特定生産緑地地区に指定していただけるよう努めていく。

・景観計画に基づく施策を着実に実施していく。

532 うるおいのある生活環境づくり



担当課 みどり公園課
関連課 まちづくり推進課、道路整備課

目 指 す 姿

市内の緑地や河川で多様な生物を見ることができ、多くの市民が緑や水辺に親しんでいる。

まち・ひと・しごと目標 基本目標 2 地域の特色を生かし魅力にあふれた選ばれるまちをつくる
(ア) 暮らしやすさが実感できる都市機能の充実

《後期基本計画冊子 P119》



指標 1 | 【まち・ひと・しごと】

公園・緑地管理ボランティア団体数（団体）

公園や緑地を管理する市民ボランティア団体数

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
22	24	24	25

指標 2 |

—

—

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

- ・現行の「朝霞市みどりの基本計画」が令和8年3月に終期を迎えることから、みどりに関する市民アンケートやワークショップを実施し、市民参加による計画改定に取り組んだ。（令和6年度、令和7年度継続事業）
- ・専門家によるシンボルロードの緑地管理を考える勉強会（現地視察等）を開催した。

【継続】

- ・黒目川桜並木の適切な維持管理。
- ・シンボルロードイルミネーション「あさか冬のあかりテラス2024」を実施。点灯開始日には、シンボルロードを含む市道8号線を歩行者天国とし、道路空間を活用。
- ・市内公園における移動式プレーパークの実施。
- ・緑化推進会議及び生物多様性市民懇談会の開催。
- ・市民ボランティア団体との協働による公園や緑地の維持管理。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【緑化推進会議】

- ・みどりの保全を推進する上で、その土地の生態系や植生等に配慮することや、生態系や植生等について学ぶ機会を設けることが必要である。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

- ・指標1について、多くの市民ボランティア団体の協力を得ながら公園や緑地の維持管理を行うことができています。
- ・「朝霞市みどりの基本計画」の改定について、生物多様性市民懇談会による意見交換を行いながら進めている。
- ・人々が集い憩える場や多様な活動の場の創出の取組として、シンボルロードイルミネーション「あさか冬のあかりテラス2024」や市内公園における移動式プレーパークなどを継続して実施しており、施策はおおむね順調に進んでいる。

【外的要因】

- ・緑化の推進及び公園や緑地の維持管理を適切に実施するためには、行政だけではなく市民ボランティア団体や事業者などの協力が不可欠である。

4 必 要 性

1 2 3 ④ … 社会的なニーズは増加傾向にある

- ・公園や緑地、道路など公共空間の利活用の多様化や、良好な景観形成に寄与することについて社会的なニーズが高まっている。これらの施策を実現するためには、「朝霞市みどりの基本計画」の市民や専門家を交えた改定作業や、「朝霞市景観計画」に基づく施策を着実に実施する必要がある。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	花の植栽事業	8,779	8,601	9,364	継続
2	黒目川桜並木管理事業	5,535	6,437	6,589	継続
3	都市計画総務事務事業【再掲】	－	－	－	継続
4	緑化推進事業【再掲】	－	－	－	継続
5	基地跡地暫定利用事業【再掲】	－	－	－	継続
6	公園管理事業【再掲】	－	－	－	継続
7	(仮称)宮戸二丁目公園整備事業【再掲】	－	－	－	継続
8	都市計画マスタープラン策定事業【再掲】	－	－	－	継続
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		14,314	15,038	15,953	

総コスト（事業費＋人件費）の
経年変化 単位：千円

R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
14,314	15,038	15,953

6 現状と課題の分析

・現在、公園や緑地における樹木の巨木化や老木化などによる枯損のほか、黒目川沿いの遊歩道についても桜の老木化による枯損が見受けられる。公共空間を安全で快適な環境に保ち、市民が集い憩える場としていくためには、計画的かつ適切な維持管理を市民や事業者と協働で行う必要がある。

7 今後の展開

・良好な景観形成に寄与する緑を保全し、黒目川沿いの公園やポケットパークをつなぐ散策路のネットワーク化を図る。
・市民と行政が協働して公園や緑地等の公共空間の適切な維持管理を行うほか、シンボルロードをはじめとする緑のオープンスペースについて、利用者が憩い集える活動の場の創出に取り組む。

8 行政と市民の役割分担

・うるおいのある生活環境づくりを進めるうえで行政が先導的な役割を果たすことから、緑と水辺の適切な維持管理や公共施設の緑化を推進する。
・市民や事業者が行う植樹事業や樹林地の管理活動をはじめとする緑地保全や緑化の推進、景観形成などを支援する。
・市において奨励金を交付している民有の保護地区や保護樹木について、市民による適切な維持を促す。

9 所管部の総括

・本市には黒目川や斜面林、多くの湧水地など、豊かな水辺や緑が残されているが、緑が減少傾向にあることから、緑の確保や質の維持・向上を図ることが重要である。
・「朝霞市みどりの基本計画」及び「朝霞市景観計画」に基づく施策を着実に実施するとともに、市民等と一層の連携を図りながら、市内に残る貴重な緑の継続的な保全に努めていく。

533 まちの魅力を生み出す景観づくり



担当課 まちづくり推進課
関連課 開発建築課、みどり公園課、道路整備課

目 指 す 姿

朝霞らしい魅力ある景観をみんなでつくり、守ることで、誰もが住み続けたい、訪れたいと感じられるまちとなっている。

まち・ひと・しごと目標 -

指 標 1

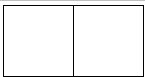


景観の満足度（%）

市民意識調査の結果報告書の景観の満足度（満足している、まあ満足しているの合計割合）

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
-	-	-	55

指 標 2



-

-

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

・シンボルロード市役所前広場に、イベントで使用するテーブルなどの備品が収納できる、倉庫機能付きベンチが寄贈された。

【継続】

・みどり豊かなまちづくりに資する寄附型自販機を市内公共施設6か所に設置し、売上金の一部をみどりのまちづくり基金に寄附・黒目川桜並木の清掃、除草、遊具等点検及び仮設トイレの設置、提灯及び灯籠の設置などを行った。
・みどりのまちづくり基金の募金活動及びPR活動を実施した。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【外部評価委員会】

・寄附型自販機は、売上金の一部がみどりのまちづくり基金に寄附されることや、これまで基金を用いてどのような事業が実施されたかをステッカーなどにより直接的に発信することで、周知が進むのではないかと。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

・景観づくり団体を対象にした、景観に関する勉強会を開催した。
・みどりのまちづくり基金については、寄附型自販機による売上金の一部の他、寄付金・募金額により目標を達成した。
・建築基準法における完了検査について、受検した全てが合格となり、良好な建築行政の運営が図られた。

【外的要因】

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

・朝霞ならではの魅力ある景観を形成し、住みたい、住み続けたいまちとしていくため、景観計画に位置付けられた施策を着実に実施するとともに、景観審議会や景観づくり団体等との意見交換会を継続的に実施する必要がある。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	景観まちづくり推進事業	10,086	5,792	6,466	継続
2	都市計画総務事務事業【再掲】	—	—	—	継続
3	みどりのまちづくり基金積立事業【再掲】	—	—	—	継続
4	黒目川桜並木管理事業【再掲】	—	—	—	継続
5	建築行政事業【再掲】	—	—	—	継続
6	都市計画マスタープラン策定事業【再掲】	—	—	—	継続
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		10,086	5,792	6,466	

総コスト（事業費＋人件費）の
経年変化 単位：千円

R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
10,086	5,792	6,466

6 現状と課題の分析

・景観まちづくりは、地域の実情に沿った個性あるまちづくりを推進するため、市民参加は必要不可欠であり、市民・事業者・行政が連携、協働して取り組んでいく必要がある。

・特別緑地保全地区等の緑地の管理を市民団体が担っているが、高齢化が進んでおり後継者の育成等が必要である。今後は、さらに市民参画を高めていく必要がある。

8 行政と市民の役割分担

・景観まちづくりは、市民・事業者・行政が協働で取り組む必要がある。

・景観重点地区であるシンボルロード周辺エリアについては、様々なステークホルダーが集い、公園、街路等のパブリック空間の活用を軸とした新しいまちなかづくりについて、官民連携で取組を進める必要がある。

7 今後の展開

・景観計画に位置付けられた施策の推進に向けて、景観審議会の開催及び景観づくり団体との意見交換会を継続的に開催するとともに、市民・事業者・行政の連携、協働を進める事業を引き続き検討する。

・黒目川桜並木や黒目川まると再生プロジェクトで整備された広場等の管理を適切に行う。

・シンボルロード周辺エリアは公共空間の利活用を軸に、居心地が良く歩きたくなるまちなか形成や魅力あるエリア創出などをを目指す。

9 所管部の総括

・良好な景観形成のため、景観重点づくり地区等において適切に制度の運用を実施するほか、景観形成補助金等の支援制度の周知活用を図る。

・景観づくり団体との連携を図り、市民・事業者・行政による景観づくりを支援していく。

・景観意識の醸成に向け広報、ホームページ、SNS等を通じて景観計画や各種制度の周知を図る。

534 循環型社会を目指した環境にやさしいまちづくり



担当課 まちづくり推進課
関連課 環境推進課、下水道施設課、道路整備課

目 指 す 姿

自然との共生や地球環境への負荷を軽減する観点から、全ての人や生き物にやさしく、環境面への配慮が行き届いたまちとなっている。

まち・ひと・しごと目標 -

指 標 1



雨水流出抑制施設設置割合（％）

開発事業件数に対する雨水流出抑制施設の設置割合

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
100	100	100	100

指 標 2

-

-

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

【継続】

- ・市民からの通報や職員のパトロールにて発見した、水路に泥が堆積している箇所の清掃を委託した。
- ・環境に配慮した創エネ・省エネ設備の普及を推進するため、太陽光発電システム、エネファーム、蓄電池、雨水貯留槽、HEMS、V2Hの設置費用に対し補助金を交付した。
- ・市有施設の屋根貸しによる太陽光発電を、3施設で継続実施した。
- ・市役所公用車駐車場に設置している電気自動車用急速充電器を利用者に有料で提供した。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

該当なし

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

- ・太陽光発電システムや蓄電池、雨水貯留槽等の設置に対し補助金を交付し、地球温暖化対策を推進することができた。
- ・水路の清掃などを適切に行うことにより、水害の被害を抑制することができた。
- ・谷津地調整池において志木市が維持管理で支出した費用について、負担割合に応じて支出した。
- ・市内公共施設での温室効果ガスの排出の削減を行い、市が先導して温暖化対策に取り組む姿勢を示している。

【外的要因】

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

- ・近年、多発するゲリラ豪雨や台風など自然災害に対する危機意識が高まっている。
- ・市民の命と財産、安心と安全を守るため、雨水流出抑制対策の必要性は高い。
- ・温暖化対策を推進するため、温室効果ガスの排出を抑制することは、今後の重要な課題となる。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	水路管理事業	2,956	2,747	3,162	継続
2	再生可能エネルギー普及推進事業【再掲】	—	—	—	継続
3	都市計画総務事務事業【再掲】	—	—	—	継続
4	地球温暖化対策推進事業【再掲】	—	—	—	継続
5	都市計画マスタープラン策定事業【再掲】	—	—	—	継続
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		2,956	2,747	3,162	

総コスト（事業費＋人件費）の
経年変化 単位：千円

R4年度

2,956

R5年度

2,747

R6年度(見込み)

3,162

6 現状と課題の分析

- ・市民や事業者に地球温暖化について関心を持ってもらうため、継続して広報、ホームページ、SNS等を有効活用し、効果的な啓発を行う必要がある。
- ・水路への不法投棄が多いため、巡回や点検を適切に実施する必要がある。

8 行政と市民の役割分担

- ・災害時には自助、共助、公助が互いに連携し一体になることで、被害が最小限になるとともに、早期の復旧・復興につながるものとなる。また、循環型社会の形成には行政、企業、個人がそれぞれの役割に応じて3Rを実践していくことが求められている。

7 今後の展開

- ・水路や桟の清掃など、適切な管理を行い、水害による被害を予防していく。
- ・循環型社会の構築を目指すため、温暖化対策（太陽光発電設置費補助、電気自動車用急速充電器有料利用、各種啓発活動）については引き続き実施する。
- ・次世代自動車の普及促進を図るため、市に設置している電気自動車用急速充電器の周知を図るとともに、創エネ、省エネ設備等の補助について近隣市の状況などを調査検討していく。

9 所管部の総括

- ・道路や公園等の公共空間等の整備には、自然環境が有する多様な機能を活用するグリーンインフラの考えに基づき整備を推進していく。
- ・地球温暖化対策や循環型社会の形成には、行政・企業・個人がそれぞれの役割に応じて実践していくことが求められており、このため行政が率先して役割を示していくとともに、広報あさか、市ホームページ、SNS等の有効活用により、効果的な啓発を行う必要がある。

574 都市農業の振興



担当課 産業振興課
関連課 学校給食課、農業委員会事務局

目 指 す 姿

農業後継者の育成がなされることにより、農業経営の安定化を図るとともに、地産地消の推進や食育への理解が深められている。また、農業体験事業による市民と農家との交流により、都市型農業の振興が図られている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P129》



指標 1

認定農業者数（人）

農業経営基盤強化促進法に基づいて、効率的で安定した農業を目指すため作成する「農業経営改善計画」を市町村に提出して認定を受けた農業者数

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
29	29	26	32

指標 2

—

—

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

1 実 施 内 容

【新規】

【継続】

- ・浜崎農業交流センターを農産物直売組合に貸し出し、地場農産物を直売し、市民と農業者が交流を図ることができた。
- ・市内に市民農園 6 農園 4 5 0 区画を設置・管理し、市民に農作物栽培の場を提供した。
- ・地場野菜出荷用箱の購入費を補助し、地場野菜の振興を図った。
- ・地場野菜を学校給食に起用し、児童・生徒は新鮮な野菜を食している。また、これにより都市農業の振興が図られた。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

農業経営改善計画書の策定へのフォローアップが必要である。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

指標 1 については、減少に転じ推移している。
認定農業者制度は、農業経営の安定につながることから、担い手育成に資するため、引き続き同制度を活用する。
市民農園の利用率は、ほぼ 1 0 0 % であり、市民に農作物栽培の場を提供することができた。
浜崎農業交流センターや市役所市民ホールでの農産物直売を実施して生産者と消費者の交流を図り、都市型農業の振興を図ることができた。

【外的要因】

農業祭は、周辺施設でのイベント等と重ならなかったため、来場者数は昨年度より減少したが、それ以前よりも増えている。

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

市民が新鮮な農作物を求める需要は高いため、地産地消を推進し、農業者や農業団体の直売事業を支援する必要がある。
都市農業は多様なメリットを有するため、農業体験などを通じて市民の理解を深め、都市農業を振興していく必要がある。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	農業祭事業	8,403	6,795	6,817	継続
2	農業振興支援事業	13,063	9,751	11,031	継続
3	農業総務事務事業	1,539	838	1,227	継続
4	浜崎農業交流センター運営事業	2,874	3,422	3,260	継続
5	学校給食運営事業【再掲】	－	－	－	継続
6	市民農園事業	8,142	8,748	9,414	継続
7	水利組合事業	2,092	1,316	51,722	継続
8	農家・農地基本台帳管理事業	6,616	8,360	6,065	継続
9	農業委員会運営事業	28,276	30,732	27,930	継続
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		71,005	69,962	117,466	

総コスト（事業費＋人件費）の
経年変化 単位：千円

R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
71,005	69,962	117,466

6 現状と課題の分析

本市の農業は、都市近郊という立地背景から宅地化が進み、農地が年々減少傾向にある。また、農業従事者の高齢化や担い手不足などの課題もあり、遊休農地も見受けられる。引き続き、市民農園や農業体験などを通して農業への理解を醸成するとともに、担い手の育成も効果的に進めるほか、農地の利用状況調査及び遊休農地対策を行う必要がある。

7 今後の展開

- ・担い手育成のための認定農業者制度を活用する。また、地産地消を推進するための直売事業を支援する。
- ・農業体験事業や市民農園事業などを通して、市民の都市農業への理解を深める。
- ・農業委員会や農協等関係機関と連携して遊休農地対策を行うことにより、農地の保全を効率的に進める。

8 行政と市民の役割分担

市民農園による農作物栽培の場を提供することや農業体験を通じて、多くの市民に農業を触れ合う機会を提供していく。また、農産物直売による生産者と消費者の交流や、新鮮な野菜を市民に提供する取組を支援していく。

9 所管部の総括

あさか野農業協同組合等関係機関との連携を強化し、農業者の意欲の向上と市民の都市農業への理解を深め、さらなる地産地消の推進への取組を図る必要がある。

656 シティ・プロモーションの展開

担当課 シティ・プロモーション課
関連課 —



目 指 す 姿

シティ・プロモーション方針に沿って、市民、関係機関、市内外事業者等と協力、連携しながら、行政だけでは実現し得ない魅力の創出を図るとともに、地域性、話題性のあるシティ・プロモーションを展開することで、まちへの愛着が醸成されている。

まち・ひと・しごと目標 基本目標 2 地域の特色を生かし魅力にあふれた選ばれるまちをつくる
(ウ) 市の魅力を発信するシティ・プロモーション

《後期基本計画冊子 P151》



指標 1

市に愛着を感じている市民の割合 (%)

市に愛着を「感じている」「どちらかといえば感じている」と答えた市民の割合

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
88.8	87.0	85.0	92.9

《まち・ひと・しごと P37》



指標 2

市民との協働や事業者等との連携によるシティ・プロモーションの機会(累計)(回)

市民や事業者等と連携しながらシティ・プロモーションに関する取組を実施する回数

R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
39	49	60	15

1 実 施 内 容

【新規】

- ・シティ・セールス朝霞ブランドを主としたシティ・プロモーション冊子を作成した。
- ・市と、朝霞市民プロモーションミーティングメンバーのSNSで共通の「# (ハッシュタグ)」を用いた魅力発信を行った。
- ・マルイファミリー志木が企画した近隣自治体による沿線イベントに参加し、ぼぼたんが市のPRを行った。
- ・朝霞市を主な舞台に描かれた小説「平場の月」の映画化にあたり、市内での撮影に強い希望があったため、関係機関と連携し、撮影に協力した。

【継続】

- ・シティ・プロモーション方針に基づく3つの会議体の運営・サポートを行い、シティ・プロモーションの推進に努めた。
- ・朝霞市の魅力やイベント情報等を、SNSを活用して発信した。また、ぼぼたんが市内外のイベントに参加し、市のPRを行った。
- ・官民連携による参加型イベントを開催するなど、地域を盛り上げる取り組みを支援した。
- ・学校からの依頼に基づき、授業の中で「朝霞の魅力」について講義し、若年層に市への興味・愛着を持ってもらうよう取り組んだ。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

- ・冊子「わたしの“あさか時間”」は、とてもよくできているが、文字が小さいため、今後の冊子等作成時は注意してほしい。
- ・市民や事業者と連携し、市民の地域活動への参加を促す取り組みについて、今後も引き続き様々なことに挑戦してほしい。
- ・市外の人も朝霞へ関心を持つよう、既存のものに頼らず、産業振興等の要素を盛り込むなどしてはどうか。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

- ・市内の小学校～大学へ、おとどけ講座を実施し、市の魅力を若年層へ伝えることができた。知らなかった朝霞の魅力を知ることができた、もっと朝霞を好きになった等の感想を得ている。
- ・朝霞市民プロモーションミーティングメンバーの活動の中で、市民同士の新たなコミュニティが生まれている。

【まち・ひと・しごと】

他の機関等と連携して市の魅力をPRする事業の回数

主なもの：	株式会社カインズとの連携事業	
	世界キャラクターさみっとin羽生	
	志木市民まつり	
	コミュニティEfEm など	合計60回

【外的要因】

株式会社カインズとの協働や、コミュニティEfEmによる市の情報番組、ミーティングメンバー個人アカウントと市との共通#による情報発信など、市の持つ媒体のみではアプローチが難しい層へ市の魅力や情報を届けることができている。

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

国が人口減少に向かう中で、朝霞市を選び、住み続けてもらうために、市の魅力を発信し、市民の地域活動への参加や市民同士のコミュニティ形成の後押し、若年層へのアプローチ等、愛着を醸成するための取り組みを続ける必要がある。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費＋人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R4決算	R5決算	R6決算見込み	
1	シティ・プロモーション事業	24,837	22,250	21,449	継続
2	広報あさか発行事業【再掲】	－	－	－	継続
3	広報事業【再掲】	－	－	－	継続
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		24,837	22,250	21,449	

総コスト（事業費＋人件費）の 経年変化 単位：千円	R4年度 24,837	R5年度 22,250	R6年度(見込み) 21,449
------------------------------	----------------	----------------	---------------------

6 現状と課題の分析

・市の持つブランドタグライン「むさしのフロントあさか」、市キャラクター「ぼぼたん」、誇れる地域資源である「シティ・セールス朝霞ブランド」等の認知度向上、市内外への浸透のため、事業課や事業者等への働きかけを継続して行う必要がある。

・朝霞市の日常の魅力を広く伝えるため、SNSについて市民の力を有効に活用する必要がある。

7 今後の展開

・朝霞市シティ・プロモーション方針に基づき、愛着醸成による定住促進と、転居先の候補地となり、選ばれるまちの実現に向けたシティ・プロモーションを実施していく。

・シティ・プロモーション委員会や広報アドバイザーからの助言や提案などを取り入れたシティ・プロモーションを展開し、本市に愛着を持つ人材や事業者と良好な関係を築き、民間からの魅力の発信を促すよう努める。

8 行政と市民の役割分担

（行政）市民にわかりやすく、効果的な情報発信を行い、行事やイベント等への参加を促す。地域の行事に参加することで、コミュニティの形成や愛着の醸成に役立つ。

（市民）事業等に参加し、市民目線での情報発信を行う。

（委員会）シティ・プロモーションの事業展開等の調査、助言等を行うほか、シティ・セールス朝霞ブランドの選定を行う。

9 所管部の総括

・シティ・プロモーション方針に基づく3つの会議体の進行については、それぞれの役割をしっかりと把握して、効果が発揮できるよう進めること。

・市民の有志で構成する市民プロモーションミーティングメンバーや、事業者等と引き続き協働・連携し、シティ・プロモーションを進めていくこと。

・市の持つコンテンツの有効活用のため、効果的な発信方法を検討し、繰り返し周知すること。

質問 番号	総合計画コード 項目等	委員からの質問	担当課	担当課からの回答	資料 請求	請求する 資料の内容	委員名
1	322 学びを支える環境 の充実	指標1事業参加者数について、令和7年度目標は、対前年比約220%と急激な目標値です。利用者・参加者を大幅に伸ばす魅力的な対策を具体的に教えてください。	中央公民館	第5次総合計画後期基本計画の策定時、令和元年度の実績65,137人をもとに、最終年度である令和7年度の目標値を設定したもので、その後、コロナウイルスの影響などもあり令和3年度以降の実績値は目標を大きく下回っています。今後も目標値に近づくよう工夫していきますが、現在策定中の第6次総合計画においては、目標値を検討しています。また、事業の実施に当たっては急速に進む情報通信機器の普及によるデジタル課への対応など、多様化するニーズに応える魅力ある立案に努めます。 図書館では、情報ツールや学習方法、楽しみ方が多様化している中、人と資料をつなぎ、読書活動の推進を図るため、様々な事業を企画、実施しています。各事業参加者の満足度は高く、小幅ですが参加者数も増加していることから、今後も実施事業の検証を行い、必要に応じて開催時期や内容等の検討を図るとともに、多様なツールを活用した情報発信に努めます。 博物館では、コロナ過で体験教室や各種講座の回数や参加者数を絞って実施していたほか、博学連携事業のうち小学校6年生対象の博物館利用授業を取りやめるなど、事業参加者が大きく減っていました。コロナ過以降は、体験教室や各種講座などについては、以前の状態に戻すべく、可能な限り定員や回数を増やして実施しているほか、興味深い発信として、令和6年度～7年度にかけ、第38回企画展「根岸古墳群と内間木古墳群～朝霞の古墳時代～」を実施したほか、博学連携事業として、小学校3年生博物館利用授業展示「昔の道具」などを行っています。これら展示・事業については、より多くの方にご来館・ご参加いただけるよう多様化するニーズに応えられる企画を進めていくとともに、あらゆる媒体を通しての周知・広報活動を実施していきたいと考えています。	—		中屋委員
2	331 スポーツ・レクリエーション活動の推進	市民スポーツ大会は、地区(自治会・町内会)対抗のスポーツ大会との印象が強く、一般の市民が参加しにくい雰囲気と捉えられ、そのような声を多く聞きます。また、自治会・町内会の加入率も数年前と比較して大きく低下していると思われますが、その中で昨年の市民スポーツ大会は自治会・町内会56に対して11とたいへん少ない参加と聞きました。市民スポーツ大会の開催意義や開催内容等、大きく変化や改善が必要と思いますが、いかがでしょうか。	生涯学習・スポーツ課	朝霞市民総合スポーツ大会は広く市民の間にスポーツを普及し、市民の親睦と健康増進を図り、併せてスポーツ・レクリエーションの振興に寄与するとともに市民生活を明るく豊かにすることを目的として開催しています。参加団体の減少については課題であると認識しており、近年は見るスポーツとして市内実業団等の選手によるエキシビション(3,000m走、1,500m走)を実施しているほか、参加地区用のテントを業者に委託し参加者負担の軽減に努めるなど、創意工夫をしながら大会を開催しています。今後も状況を注視し、町内会や市民の皆さん等からの御意見を聞きながら、誰もが参加しやすく楽しめる大会を開催していきたいと考えています。	—		中屋委員
3	331 スポーツ・レクリエーション活動の推進	・市民スポーツ大会について ①オープン参加はチーム単位での参加ですが、どのようなグループが申し込み参加しているのですか。 ②各種目参加者全員に「お菓子の詰め合わせ」を配布しているとのことですが、適切であると考えていますか。	生涯学習・スポーツ課	①オープン種目について、グループの把握まではしていませんが、当日受付の種目はチーム単位での受付に限らず、個人や数名のグループでも受け付けており、担当の係の方で人数を調整しながらチーム分けを行っています。事前受付の種目については、昨年度は申し込みがありませんでした。 ②町内会の参加数が減少している状況を受け、一般の参加者を集うため、子どもをはじめとした家族単位での参加意欲の向上を狙いとし、親しみやすい参加賞として「お菓子の詰め合わせ」に景品の当たるくじを同封し配布しています。	—		緑川委員
4	331 スポーツ・レクリエーション活動の推進	・ロードレース大会について 昨年度の全参加者数と参加者の年代別割合を教えてください。	生涯学習・スポーツ課	各種目合計で538人の方にご参加いただきました。各種目の参加者数及び一般・壮年部門の参加者の年代別割合については、資料としてまとめましたので、請求資料として提供します。	○	左記がわかるもの (回答欄に記載いただくか、資料提供のどちらでも構いません。)	緑川委員

質問番号	総合計画コード 項目等	委員からの質問	担当課	担当課からの回答	資料 請求	請求する 資料の内容	委員名
5	341 歴史や伝統の 保護・活用	歴史と伝統を大切にされている様子に敬意を表します。他方で、近現代の歴史に関してはあまり言及がないようですが、朝霞市には旧軍の施設や米軍基地もあり、興味深い点が多々あります。これらを活用しようという動きは、市側、市民側にありますか。	政策企画課 みどり公園課	【政策企画課】 基地跡地については、「基地跡地利用計画」や「基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画」に基づき整備を進めることとしていますが、用地取得や整備には多額の費用を要すること、また、土壌汚染や埋設物への対応等が必要なため、安全面からも現状での利用は難しく、具体的な整備スケジュールを示すことは難しい状況となっています。 【みどり公園課】 本市では、「朝霞市基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画」を策定し、基地跡地の大部分を公園及びシンボルロード用地として位置付けています。この計画では、米軍基地時代の歴史の継承及び歴史を学ぶ素材として、遺物や遺構の保全・活用について、専門家や市民と共に検討することとしています。	—		武田委員
6	341 歴史や伝統の 保護・活用	現在、朝霞市博物館では市の予算以外に収入を得る手段はあるのでしょうか。 (例)寄附、有料の講座 等	文化財課	朝霞市博物館での収入については、文化財課刊行物のうち有償頒布刊行物の頒布代金の収入、博物館に設置する自動販売機用敷地貸付料の収入があります。	—		緑川委員
7	343 地域文化による まちづくり	彩夏祭のオフィシャルグッズのデザインや扱うアイテムの決定はどのように行われているのでしょうか。名実ともに市を代表するイベントにする為にも、より多くの幅広い層の市民の参加に繋げる事が必要で、公募等の方法を検討されてみて良いのではないかと考えたのですが、いかがでしょうか。	地域づくり支援課	彩夏祭に関する事項は、オフィシャルグッズの決定を含め、市民が実行委員を務める「朝霞市民まつり実行委員会」の中で議論され、決定しています。グッズ制作等を公募等の方法にすることに関しては、朝霞市民まつり実行委員会の中で議論してまいります。	—		吉田委員
8	343 地域文化による まちづくり	中学生～大学生位の年齢層の取り込みができていない事が気になります。イベントによっては演者として参加の誘致などをできるものもあると思うのですが、学校側に参加の働きかけなどされているのでしょうか。	地域づくり支援課	彩夏祭では、小中学校の鳴子踊りへの参加に際し、補助金を支給するなど、若い世代の参加を促進する活動を行っており、今年は小学校3校、中学校3校が出場予定です。また、近隣の高校・大学には、ボランティア募集・活動や飲食販売等で協力いただくなど、まつりの運営という立場でも参加していただいています。	—		吉田委員
9	411 住みよい環境づくり の推進	①朝霞台の駅周辺のムクドリ対策は進んでいますが、住宅街のカラス対策や、ハクビシン、タヌキ対策はどの程度進んでいるのでしょうか。 ②朝霞の森に隣接するキャンプドレイク跡地には、野生生物が生息していると聞きます。繁殖し、バランスを崩す可能性は無いのでしょうか。 ③公園にドッグランのエリアを作ってほしい要望も聞きます。今後のバランスの取れた自然環境保全について方針を教えてください。	①、②環境推進課 ③みどり公園課	①まず、ムクドリ・カラス・ハクビシン・タヌキについては鳥獣保護法により捕獲することはできません。ただし、ムクドリについては、北朝霞駅周辺での糞害等の被害により、年2回程度、鷹による追い払いを行っています。 また、特定外来生物であるアライグマについては、埼玉県のアライグマ防除計画により、令和6年度は112頭捕獲しています。 ②国有地であるキャンプドレイク跡地には、様々な動植物が生息していることと考えられます。一方で、手付かずの状態で放置されているため、常緑樹が成長することにより、光の差し込みが減少し、動植物の生態系に影響があることは考えられます。 ③これまで都市公園等ヘドッグランの設置について検討してまいりましたが、ドッグラン用のまとまった面積を確保することが難しいことや、周辺の住環境への影響に加え、運営における課題なども多いことから、設置については実現に至っていない状況です。 市では現在、「朝霞すみどりの基本計画」の改定作業を行っており、身近な生き物や地域固有の生き物を守るすみどりづくりを進め、自然とのふれあいの場の保全を図ることとしています。	—		佐藤委員
10	412 低炭素・循環型社会 の推進	①リサイクルショップと家具類の販売、それぞれの売上額を教えてください。 ②家具類の訪問収集と補修は誰が行っているのですか。	資源リサイクル課	①令和6年度販売実績は次のとおりです。 ・リサイクルショップ 38,727点 9,105,780円 ・リサイクル家具 380点 879,700円 ②家具類の訪問収集と補修は、公益財団法人いきいき埼玉から人材派遣された高齢者が行っています。	○	リサイクルショップの売上額と総コストの対比がわかるもの	緑川委員

質問番号	総合計画コード 項目等	委員からの質問	担当課	担当課からの回答	資料 請求	請求する 資料の内容	委員名
11	412 低炭素・循環型社会 の推進	低酸素・循環型社会の取り組み目標に対し、予算が割り当てられている事業の具体的貢献度をできれば数値でご教示ください。	環境推進課	施策に対する取り組みは、市民に補助を行うもの、普及啓発を行うものとさまざまであり、具体的貢献度を数値で表すことは困難であると考えます。 しかし、再生エネルギーの普及促進、省エネルギー・省資源の推進、ごみの減量・リサイクルの推進をはじめ、各事業を進めることにより、目標指標に対して着実に実績値は上がってきているものと考えています。	—		山崎委員
12	412 低炭素・循環型社会 の推進	リサイクルショップ運営事業が施策の中に含まれていますが、あえて民間に任せずに自治体がやる狙いや意義はどのようなところにあるかご教示ください。	資源リサイクル課	リサイクルプラザは、ごみの減量化・再資源化に関する「情報発信拠点」として平成12年に開所し、20年以上が経過しました。 市民の皆さんに生活の中でごみ減量化・再資源化を実践していただくため、これまで様々な事業を展開してきましたが、社会情勢の変化などに伴って、事業内容が時代のニーズと合わなくなっているのではないかと、との課題が浮かび上がってきました。 こうした環境の変化を踏まえ、これまでのプラザの事業を見直し、時代のニーズに合った活動に再構築する検討をしており、現在、リサイクルショップについても見直しているところです。	—		山崎委員
13	413 環境教育・環境学習 の推進	①現在までに、小・中学生に対する環境学習や環境教育は、どのような事を行ってきたのでしょうか。 ②小・中学生以外に対しては、どのような環境学習や環境教育を行っているのでしょうか。	環境推進課	①環境学習については、小学生を対象とした「環境ポスター」の募集・表彰のほか、楽しみながら環境について学べるように「あさか環境かるた」を作成し、市のホームページに掲載しています。 また、夏と冬に行っている「エコライフDAY・WEEK」は、市内小・中学校での参加を依頼しており、令和6年度は朝霞第二小学校、第三小学校が参加しています。 ②小・中学生以外に対しては、地球温暖化防止パネル展や「エコライフDAY・WEEK」の参加など、地球温暖化防止に係る周知啓発を行っています。	—		緑川委員
14	422 ごみ処理体制の 充実	家庭ごみの排出量が年々減少しているとのことですが、事業ごみは増加とのこと、事業所に啓もう活動が必要と感じました。 また、令和12年度に新処理施設稼働が予定されているとのことですが、概要を教えてください。	資源リサイクル課	事業ごみ排出量は令和5年度に比べて増加しましたが、事業所数も増加しており、1事業所当たりの排出量は横ばいとなっています。今後も、紙類や厨芥類の再資源化について事業者へ啓発することで、事業ごみ排出量の減量に取り組んでいきます。 令和12年度に移働予定の新施設ですが、本市と和光市とごみを共同で処理するため、朝霞和光資源循環組合を設立し、和光市内に可燃ごみと粗大ごみを広域処理する施設を建設します。現在の進捗としましては、令和7年1月31日に契約を締結し、令和7年5月から工事を開始しています。	—		佐藤委員
15	422 ごみ処理体制の 充実	R4からの決算額の傾向を見ると可燃ごみ処理事業のコストが下がる一方、資源ごみ処理事業のコストが上昇しています。この理由をご教示ください。	資源リサイクル課	令和6年度の資源ごみ処理事業費の増加は、プラスチック類処理施設整備工事(27,280千円)で、ペットボトルとプラスチックの圧縮梱包機とコンベヤの修繕を実施したことによるものです。	—		山崎委員
16	422 ごみ処理体制の 充実	現在計画中的新ごみ処理施設では資源の回収を見込んでいるのでしょうか。(これを質問した理由としては、2022年神奈川県相模原市の南清掃工場にてごみ焼却炉の中から金銀を回収して3700万円の利益を得たということがあり、朝霞市はそういったことを計画しているのか否かを知りたかったからです。)	資源リサイクル課	現在計画中的の新ごみ処理施設は「ストーカ式焼却炉」を採用しており、神奈川県相模原市の南清掃工場の「流動床式ガス化熔融炉」と異なる方式のため、都市鉱山の採掘は計画していません。	—		山崎委員
17	532 うるおいのある 生活環境づくり	①公園や緑地を管理する市民ボランティア団体の名称と各団体の参加者数(登録者数)を教えてください。 ②市民ボランティアには、どの程度の権限・自由度が認められているのですか。 (例:花壇やベンチの新設、樹木の伐採、植樹 等) ③これらのボランティア活動に対し、市からの補助・助成金はあるのでしょうか。	みどり公園課	①令和7年6月末現在、公園管理団体が19団体で167人、緑地管理団体が5団体で108人が登録されています。 ②市民ボランティアの活動内容については「朝霞市公園管理実施要項」にて定めており、公園内の落ち葉や枯れ枝などの指定場所への収集や、除草、花壇への草花の植付けなどがあります。権限についての明確な事項はありませんが、花壇に植付ける草花のご要望をお聞きするなど柔軟に対応しています。 ③活動に伴う助成金はありませんが、鎌や軍手、ゴミ袋等の消耗品のほか、植付けを行う花苗を支給しています。	○	市民ボランティア団体の名称と各団体の参加者数がわかる一覧	緑川委員

質問 番号	総合計画コード 項目等	委員からの質問	担当課	担当課からの回答	資料 請求	請求する 資料の内容	委員名
18	532 うるおいのある 生活環境づくり	あさか冬のあかりテラスの取り組みに関して、期間中の周辺飲食店の客の動向など、イルミネーションを行う事によって周辺にどのような効果が生まれているかの調査はされているのでしょうか。Web上であかりテラスについてアンケートも取っていたかと思いますが、そのアンケート結果も教えてください。 期間が長い割に取り組みが断片的な感じがおり、気になっています。	みどり公園課	あさか冬のあかりテラス開催期間中における周辺飲食店の来客数の調査は行っていますが、実施後のアンケート結果では、電車を利用された市外にお住まいの方も多かったことから、朝霞駅周辺の飲食店をご利用された方も多くいらっしゃるのではないかと考えています。 なお、アンケートにおいて、期間中、周辺にどのような効果が生まれていたかという設問がなかったことから、今年度、アンケートに取り入れてみたいと思います。 今年度のあさか冬のあかりテラスは前年度と同様、58日間を予定しています。これまでイルミネーションの夜間点灯のほか日中でも楽しめる装飾を行ってきましたが、点灯期間中、より多くの方にお越しいただき楽しんでいただけるよう、例えばキッチンカーの配置やイベントの実施等、可能な取り組みについて検討してみたいと思います。	○	冬のあかりテラスのアンケート結果	吉田委員
19	533 まちの魅力を生み 出す景観づくり	武蔵野の自然を残し、歴史ある文化財の保全のためにどのような取り組みがあるのか具体的に教えてください。	みどり公園課 文化財課	【みどり公園課】 みどり公園課では、身近な緑と水辺から構成するみどりあふれるまちを目指すため、特定生産緑地や特別緑地保全地区の指定などを行い、緑地の保全に努めています。 【文化財課】 具体的な取り組みとしては、国指定重要文化財「旧高橋家住宅」では、建造物を保存するとともに、畑を活用した事業などを通じて文化財の普及啓発を図り、周囲を取り囲む雑木林を維持管理することで武蔵野の農家景観を今に伝えています。また、市指定天然記念物「湧水代官水」では、湧水とあわせて斜面林を維持管理することで、武蔵野の自然とともに文化財の適切な保護・管理を図っています。	—		佐藤委員
20	574 都市農業の振興	①認定農業者が減少していますが、市が把握している理由があれば教えてください。 ②「3 進捗状況」の【外的要因】の意味が理解できません。詳しい説明をお願いします。また市として昨年度の農業祭は成功と考えているのでしょうか。	産業振興課	①廃業(酪農)が近いため認定を更新しなかった方が2人と、死亡による認定取り消しが1人で、計3人の減となりました。 ②令和5年度は、会場の近くで「小さなテラス」というキッチンカーが集まるイベントが開催され、農業祭にも足を運んでくれた方が大勢いましたが、令和6年度は日程が重ならなかったため、例年と比べ若干の増加にとどまりました。 令和6年度農業祭は、5年度より来場者が減少したものの、4年度及びコロナ前より若干増加しており、概ね成功と捉えています。	—		緑川委員
21	574 都市農業の振興	R6の水利組合事業は例年の決算額約200万円と比べて25倍もの約5000万円の決算額となっています。これはどういった事業でしょうか。また評価シート内には触れられた記載がありませんでした。現時点で狙いと成果はどのように捉えられていますか。	産業振興課	あずま南地区土地区画整理事業に伴い、当該地内に敷設されている旧東用水の送水管(ヒューム管、口径500ミリ、延長393メートル)撤去工事を行ったため、例年より大幅な増額となりました。 現在、送水管は使用しなくなったことから、不要な施設の撤去を行ったものです。	—		山崎委員
22	574 都市農業の振興	農業委員会運営事業とはどのようなものでしょうか。 また決算額として約3000万円弱と決して小さくない額なので歳出の内訳をご教示ください。	農業委員会事務局	農業委員会運営事業は、農業委員会を運営するための事業です。 農業委員会は市に置かれている行政委員会であり、主な業務として、農地法に基づく許可業務や、農地利用の最適化の推進等があり、農業委員が活動を行っています。 農業委員会運営事業の主な支出は、農業委員等の委員報酬及び旅費のほか、図書購入費等の需用費等です。	○	農業委員会運営事業の歳出詳細	山崎委員

質問 番号	総合計画コード 項目等	委員からの質問	担当課	担当課からの回答	資料 請求	請求する 資料の内容	委員名
23	656 シティ・プロモーションの展開	①指標1と2が連動していません。「目指す姿」の最終目標である「まちへの愛着」へつなげる為には、現状の意識・取り組みを変える必要があると思いますが、今後どのような取り組みを行うのでしょうか。 ②市のブランドタグライン「むさしのフロントあさか」とは言葉として何を表現しているのか、何を表現したいのかを教えてください。他市の方から「むさしのフロントあさか」って何ですか？と聞かれた場合を想定して回答をお願いします。 ③「シティ・セールス朝霞ブランド」の認定基準を教えてください。また、なぜ「ブランド」という言葉を使ったのかも教えてください。	シティ・プロモーション課	①市民が気になる、参加したくなるような情報の発信に工夫を加えること。また、小中学校の児童生徒をはじめとする若年層を巻き込んだ取り組みによる、朝霞の魅力を知る機会を提供していきたいと考えており、将来へ向けた愛着の醸成を図ります。 ②「むさしのフロントあさか」の言葉には、「わずかな時間で都心部へアクセスできるのに、木々にせせらぎに、坂なす小径に武蔵野のみずみずしい面影を残すまち」であり、自然と交通利便性がバランス良く調和したこの地の魅力が込められています。 ③認定基準は、 (1)本市のシティ・セールスに資すると認められること。 (2)本市の魅力及び知名度の向上に資すると認められること。 となっており、シティ・プロモーション委員会が選定理由書を市長に提出し、市が認定するものです。 ブランドについては、本市の誇れる歴史・文化・景観・行事・産品等の地域資源を市内外に発信し、市のイメージ向上と郷土意識の醸成を図ることであり、その地域資源をあさか独自の魅力的価値、すなわち「朝霞ブランド」として使用しています。	—		緑川委員

委員の関心・興味があるテーマやキーワード ※ 会議の中で話題として取り上げる可能性があります。

テーマ・キーワード	委員名
地域文化によるまちづくり	吉田委員
環境にやさしいまちづくり	中屋委員
持続可能な環境づくり	山崎委員
黒目川の整備	佐藤委員、中屋委員
ごみの減量	佐藤委員、中屋委員、緑川委員、山崎委員
適正な土地利用	吉田委員
イベントの充実	吉田委員
文化財の保全	佐藤委員
豊かな自然を保全しつつ、カラス、ムクドリ、ハクビシン、タヌキなどの野生生物との共存を図りバランスの取れた自然環境保全	佐藤委員

第63回朝霞市ロードレース大会 参加者数等

種目		参加申込者数	参加者数
No.01	ふれあい(小学1年生)	52人	50人
No.02	ふれあい(小学2年生)	78人	66人
No.03	ふれあい(小学3年生)	52人	44人
No.04	小学4年女子	7人	6人
No.05	小学4年男子	20人	15人
No.06	小学5年女子	10人	5人
No.07	小学5年男子	15人	14人
No.08	小学6年女子	3人	1人
No.09	小学6年男子	13人	10人
No.10	中学生女子	14人	13人
No.11	中学生男子	24人	21人
No.12	一般女子(高校生以上)(5km)	12人	10人
No.13	一般男子(高校生以上)(5km)	42人	30人
No.14	壮年女子(40歳以上)(5km)	22人	19人
No.15	壮年男子(40歳以上)(5km)	94人	69人
No.16	一般女子(高校生以上)(10km)	26人	21人
No.17	一般男子(高校生以上)(10km)	172人	144人
計		656人	538人

種目No.12～No.17の年代別内訳(申込者数と割合)

			1 0 代	2 0 代	3 0 代	4 0 代	5 0 代	6 0 代	7 0 代	8 0 代	合計
No.12	一般女子(高校生以上)(5km)	人数	1人	3人	8人						12人
		割合	8%	25%	67%						100%
No.13	一般男子(高校生以上)(5km)	人数	2人	9人	26人	2人	2人	1人			42人
		割合	5%	21%	62%	5%	5%	2%			100%
No.14	壮年女子(40歳以上)(5km)	人数				14人	7人	1人			22人
		割合				64%	32%	5%			100%
No.15	壮年男子(40歳以上)(5km)	人数				43人	33人	13人	4人	1人	94人
		割合				46%	35%	14%	4%	1%	100%
No.16	一般女子(高校生以上)(10km)	人数		3人	6人	9人	6人	2人			26人
		割合		12%	23%	35%	23%	8%			100%
No.17	一般男子(高校生以上)(10km)	人数	16人	13人	16人	49人	49人	25人	2人	1人	171人
		割合	9%	8%	9%	29%	29%	15%	1%	1%	100%
計		人数	19人	28人	56人	117人	97人	42人	6人	2人	367人
		割合	5%	8%	15%	32%	26%	11%	2%	1%	100%

No.17は不明1名あり

請求する資料の内容：リサイクルショップの売上額と総コストの対比がわかるもの

年度	販売点数	販売金額	リサイクルショップ 運営事業決算額
令和4年度	33,748点	8,612,910円	9,443,730円
令和5年度	33,257点	8,385,540円	10,081,427円
令和6年度	38,727点	9,105,780円	11,064,387円

公園管理団体

団体名	人数
宮戸立出町内会	8
さくら草グループ	10
ひまわりの会	8
陽光クラブ	7
白ゆりの会	10
すみれクラブ	6
パンジー	6
東南部町内会	5
みやど元気会なでしこ会	15
島の上公園・花とみどりの会	9
ライオンズヒルズ朝霞台園芸サークル	8
小さな庭	7
テイ・エステック株式会社経理部	7
緑ヶ丘チーム	8
城バスお掃除隊	26
かに山クラブ	6
朝霞宮戸住宅管理組合植栽委員会	8
親和自治会	5
あさか公園クラブ	8

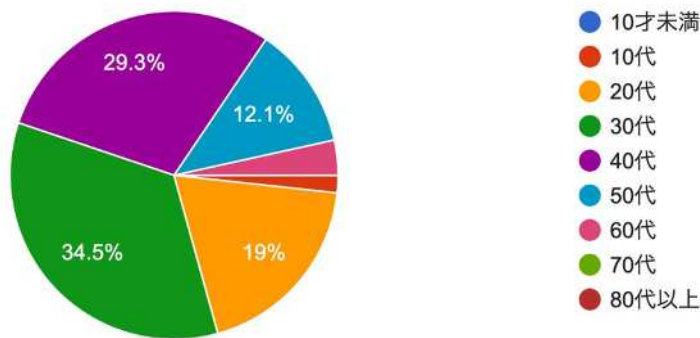
緑地管理団体

団体名	人数
黒目花広場あじさい苑サポーターズクラブ	10
あさか環境市民会議	53
わくわく新河岸川みどりの会	16
あさカラベンダー愛育会	18
わくわく田島緑地広場の会	11

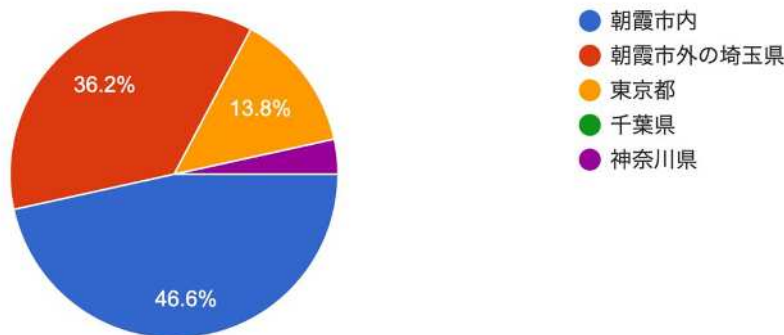
「あさか冬のあかりテラス 2024」 アンケート結果

回 答 数： 59 件
募集期間： 2024 年 11 月 30 日～2025 年 3 月 7 日の 98 日間（14 週間）
方 法： 朝霞市ホームページ あかりテラスページ内 Google Form へのリンク

Q 1. あなたの年齢を教えてください。
58 件の回答

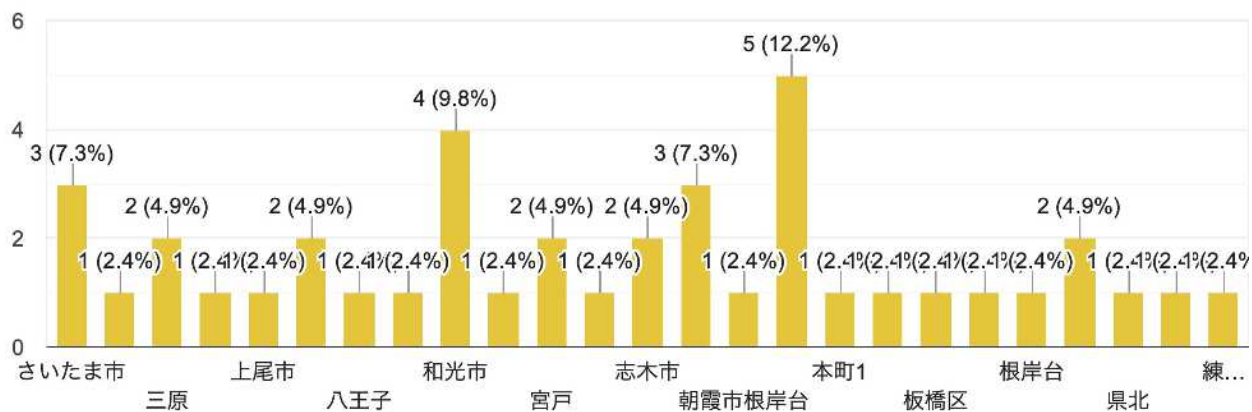


Q 2. あなたのお住まいを教えてください。
58 件の回答



Q 3. Q2で「朝霞市内」「朝霞市外の埼玉県」と答えた方にお尋ねします。お住まいの地域を教えてください。

41 件の回答



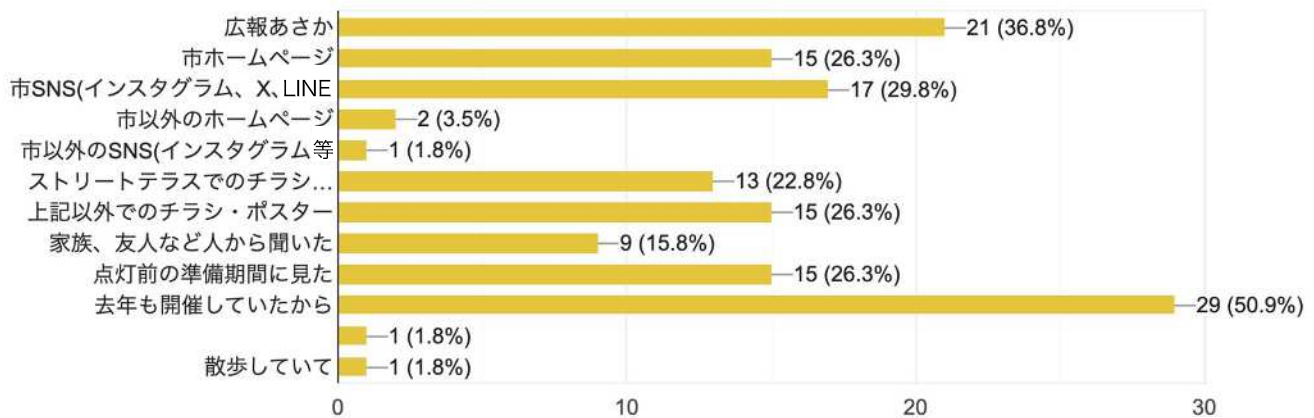
Q 4. 「あさか冬のあかりテラス2024」が開催されていることを知っていましたか。

56 件の回答



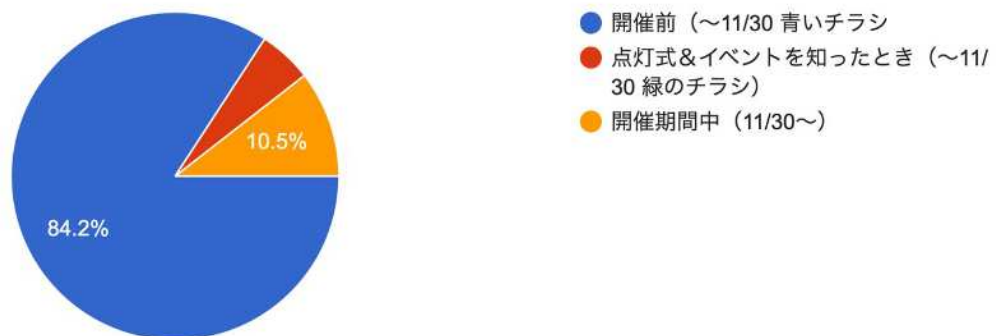
Q5. Q4で「知っていた」と答えた方にお尋ねします。「あさか冬のあかりテラス2024」を何で知りましたか。（複数回答可）

57件の回答



Q6. Q4で「知っていた」と答えた方にお尋ねします。「あさか冬のあかりテラス2024」が開催されていることをいつ知りましたか。

57件の回答



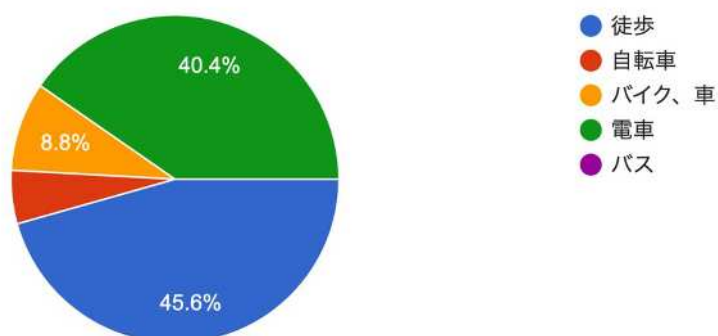
Q7. Q4で「知らなかった」と答えた方にお尋ねします。どのような広報の方法が効果的だと思いますか。

1件の回答

もうすでに十分に、十二分に、頑張られていると思います。

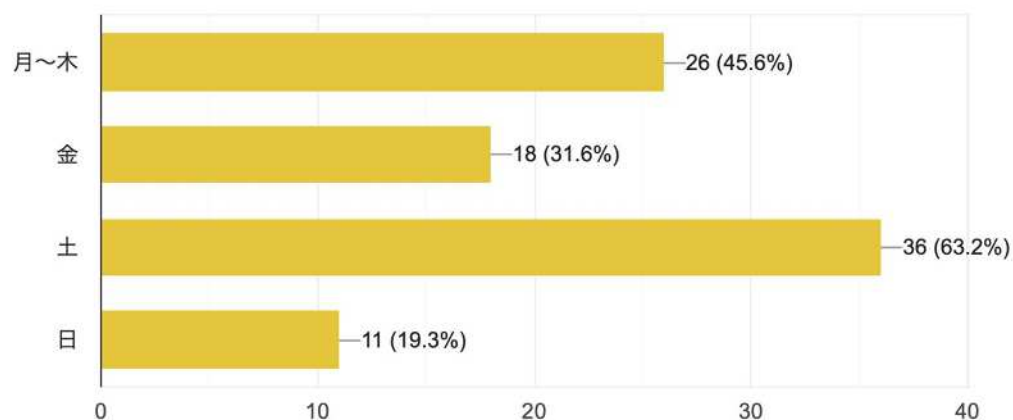
Q 8. 会場までの主な交通手段は何ですか。

57 件の回答



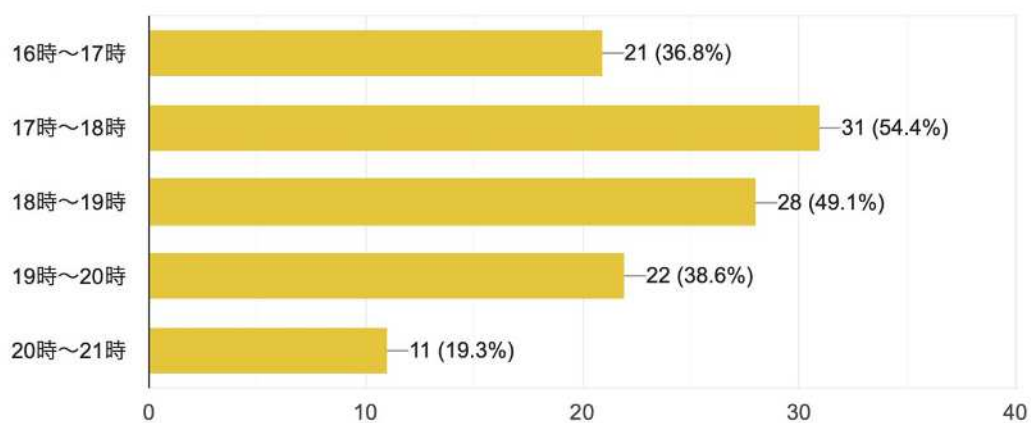
Q 9. 見に行った曜日を教えてください。（複数回答可）

57 件の回答



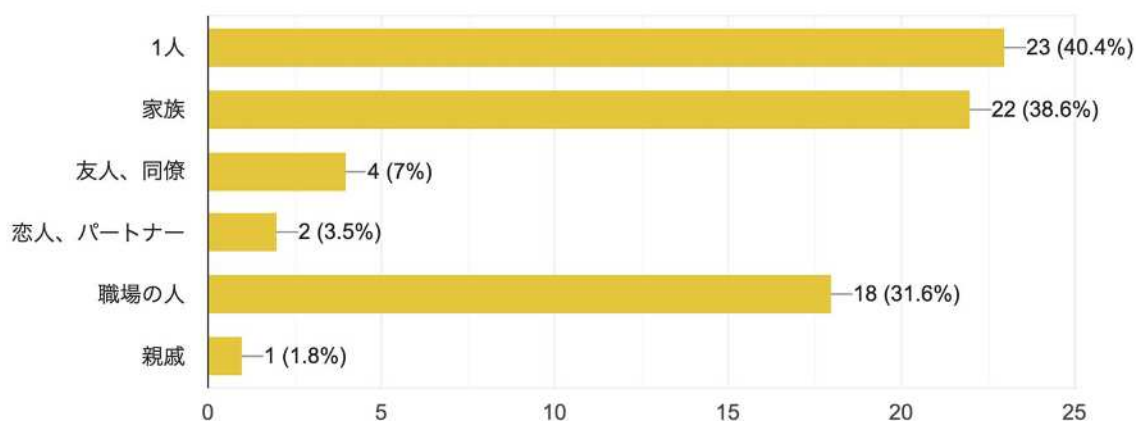
Q 10. 見に行った時間を教えてください。（複数回答可）

57 件の回答



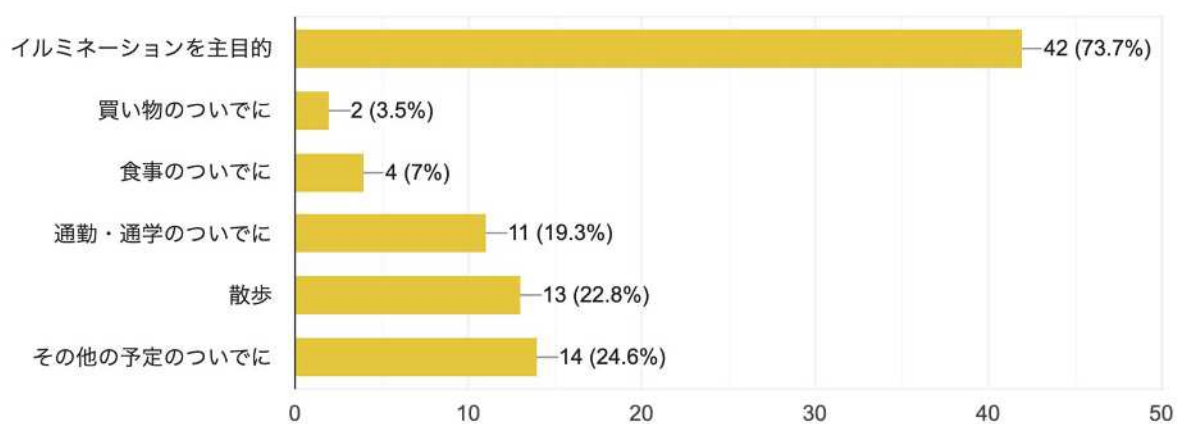
Q 1 1. 誰と見に行きましたか。（複数回答可）

57 件の回答



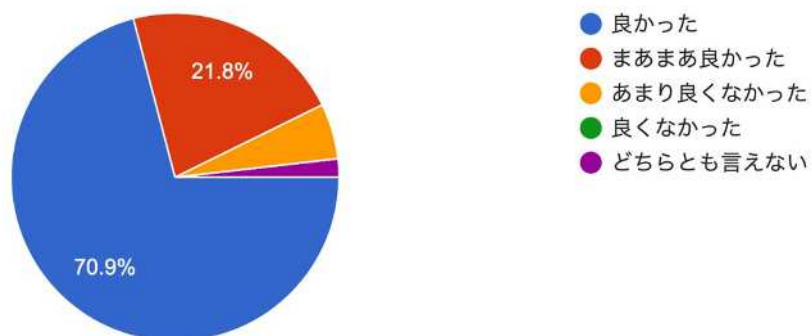
Q 1 2. 見に行った理由を教えてください。（複数回答可）

57 件の回答



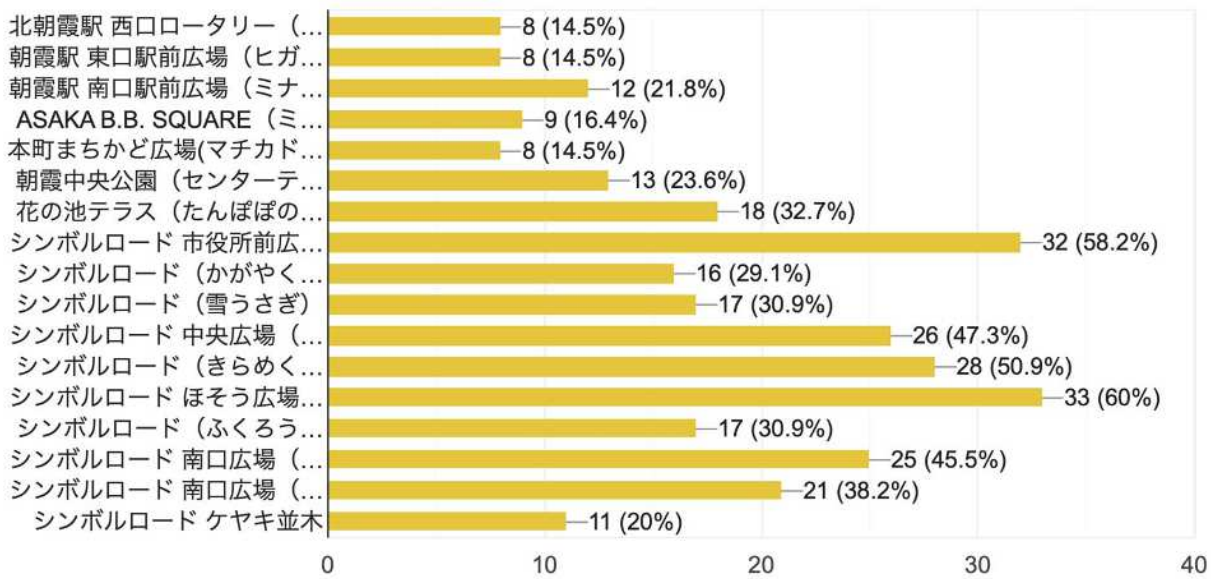
Q 1 3. 今年のイルミネーションをご覧になった感想を教えてください。

55 件の回答



Q14. 特に良かったイルミネーションは何ですか。(複数回答可)

55件の回答



☐ 北朝霞駅 西口ロータリー (キャロットテラス)



☐ 花の池テラス (たんぽぽの丘)



☐ シンボルロード ほそう広場 (森のたまご)



☐ 朝霞駅 東口駅前広場 (ヒガシテラス)



☐ シンボルロード 市役所前広場 (サンクス)



☐ シンボルロード (ふくろうの森)



☐ 朝霞駅 南口駅前広場 (ミナミテラス)



☐ シンボルロード (かがやく黒目川)



☐ シンボルロード 南口広場 (アニマルゲート)



☐ ASAKA B.B. SQUARE (ミニテラス)



☐ シンボルロード (雪うさぎ)



☐ シンボルロード 南口広場 (チョットテラス)



☐ 本町まちかど広場(マチカドテラス)



☐ シンボルロード 中央広場 (花トンネル)



☐ シンボルロード ケヤキ並木



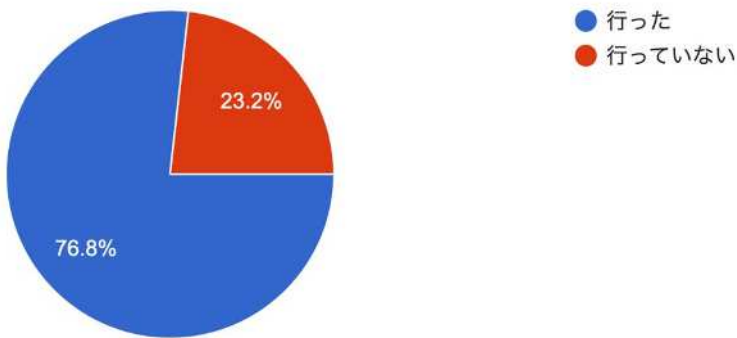
☐ 朝霞中央公園 (センターテラス)



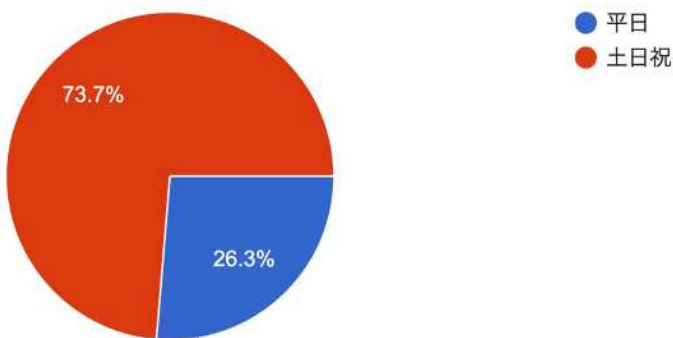
☐ シンボルロード (きらめくイチョウ)



Q 1 5. 2024年11月30日(土)開催「あさか冬の...ラス2024 点灯式&イベント」に行きましたか。
56 件の回答



Q 1 6. 今回点灯式が、昨年度と違い土曜日開催...平日開催または土日祝開催どちらが良いですか。
57 件の回答

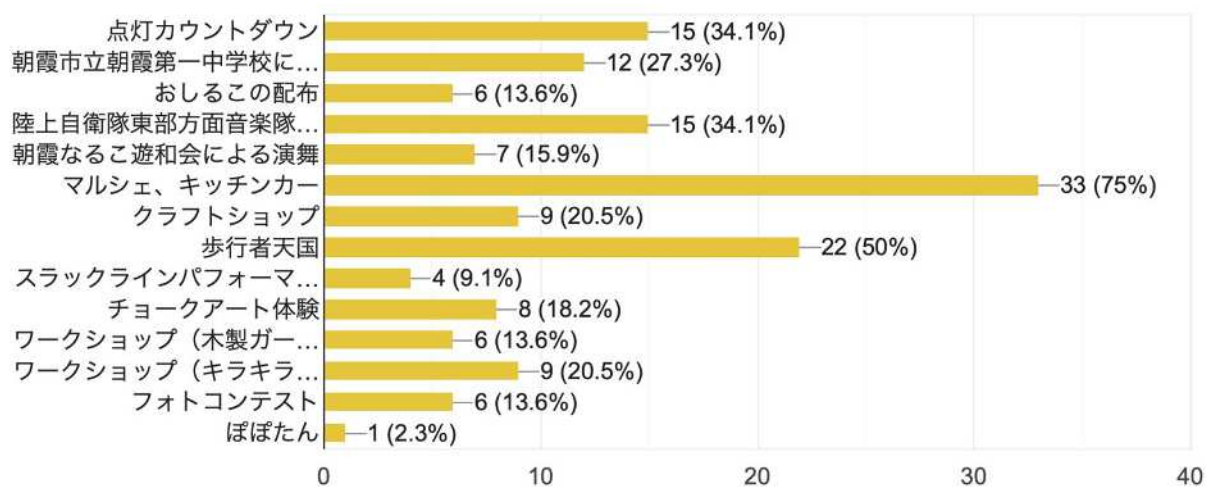


Q 1 7. Q 1 5で「行っていない」と回答した方にお尋ねします。その理由を教えてください。
10 件の回答

出張だった
私用有
時間があわず
都合がつかなかったため
平日の仕事帰りには行くが、土日だとわざわざ行くことはしないです
土曜日で他の予定があったため
予定があったため
ご縁がなく
忙しい
産後のため

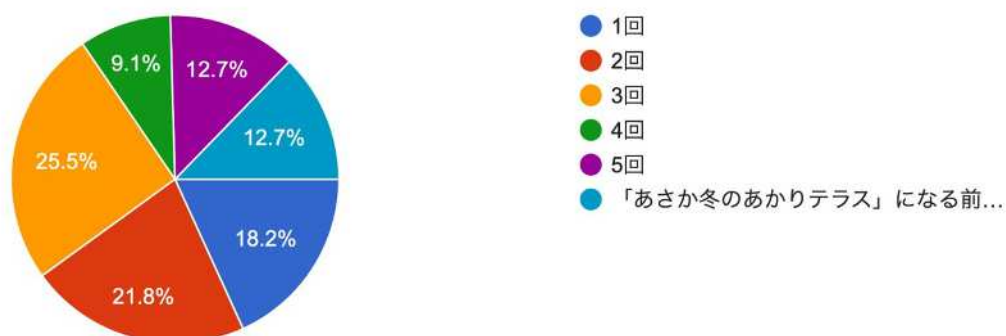
Q18. Q15で「行った」と回答した方に伺います。よかった企画は何ですか。（複数回答可）

44 件の回答



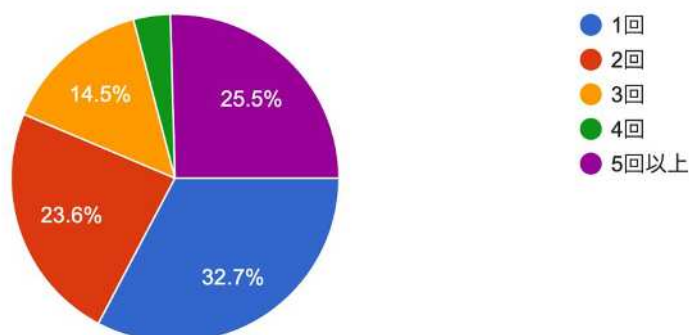
Q19. 過去と今回までの「あさか冬のあかりテラス」を何回見に行ったことがありますか。

55 件の回答



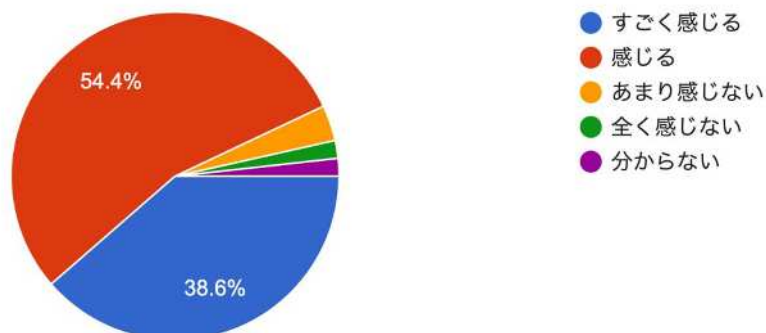
Q20. 今回の「あさか冬のあかりテラス2024」は何回見に行きましたか。

55 件の回答



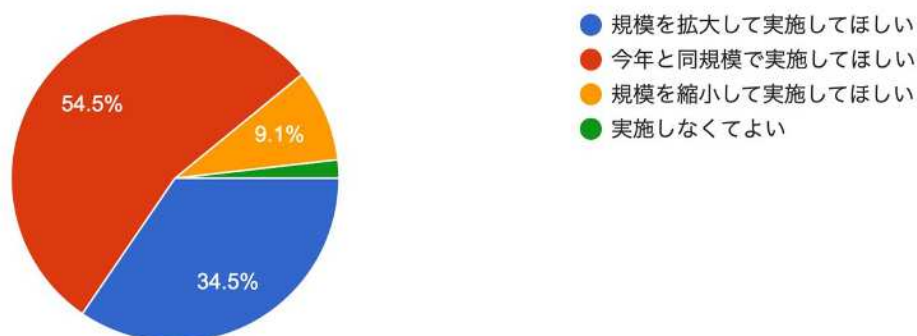
Q 2 1. 「あさか冬のあかりテラス2024」の実施は、朝霞市のにぎわいに効果があると感じますか。

57 件の回答



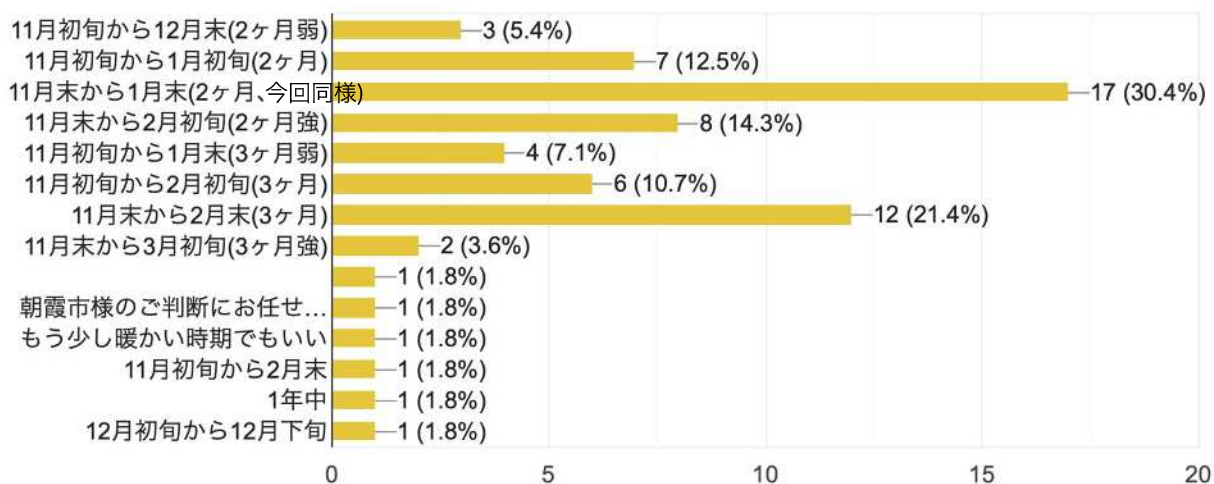
Q 2 2. 来年度の「あさか冬のあかりテラス」の開催についてどう思いますか。

55 件の回答



Q 2 3. 実施期間はいつからいつまでが良いと思いますか。（複数選択可）

56 件の回答



Q 2 4. 今年度のイルミネーションは昨年度と比べてどうでしたか。

36 件の回答

昨年度より良かったと思う
テーマが動物関係で子どもにもわかりやすく楽しんでいます。
点灯式に行きましたが、カウントダウンからの驚きもない程イルミネーションが少なかったのですが、今年は失敗やトラブルがあったのですか？
子どもと一緒に楽しめるワークショップがあったので参加できてよかった
テーマが明確で、とても良かった。
綺麗だった
場所や樹木の魅力を活かしていて、他に無いイルミネーションで良かった。 全エリアで統一感を出そうとしていて良かった。
動物がたくさんで、とてもよかった
よかった
昨年度のガラガラしたイルミより自然に調和しておりとても良かったです。 屋間も楽しめるイルミネーションであったため、満足です。
森のたまごが良かったです！
動物が各所に効果的に配置されていて一体感があった
大きな動物のオブジェがあるなどダイナミックな印象があった
昨年よりも良かった
良かった
コンセプトが良かった
よかった
テーマが感じられてよかった
去年より良かった。竹細工の装飾よりも派手な展示が多く良いと思う。
よかった
良かった
駅前通りをもっとイルミネーション化できるといいな。 電柱電線でごちゃごちゃしてるから見栄えが悪くなるかもしれないですが
鹿が凄かった
凝りすぎて印象があった。 最初の頃の素朴な感じがよかった。
いつも素敵です！ 今年は特に動物モチーフや数字が散りばめられていて、ストーリー性を感じられて良かったです。
毎年趣向を凝らして、面白いと思います。
いろいろなコンテンツがあって良かった
デカイシカなどのイルミネーションがありよかった。
協賛のイルミネーションが迫力がありよかった
コンセプトが素晴らしい
大きいものがあって、さらに気合が入ってるなと思いました。
よかった
去年よりも規模が増してすごく良かったです。 夜は暗くなる道なので、あかりテラスがあると寒い夜も明るく感じて安心します。
どちらも素晴らしいと思います
豪華な気がしました。去年よりもずっと良かったです。
屋間に散歩していても、範囲が広くイルミネーションされているので楽しめた。 オブジェが凝っていて素敵でした。

Q25. 今後の「あさか冬のあかりテラス」に望むことは何ですか。

35 件の回答

街路樹の電飾をもっと増やして欲しい
毎年継続して開催していただきたいです。
ここまでイベントとしてアピールするなら、 もっと木のトンネルになる程の美しい光を作って欲しいです。
毎回テーマを変えるのは良いが、全体的にもっと統一感があつた方が 街全体で行なっている感じが出て規模の大きさをアピールできると思う。
エリアとエリアをつなぐイルミネーションの充実
イルミネーションの点灯時間をもっと伸ばして欲しい
周辺都市へのPR、集客、クリスマスイベント
朝霞市の税収が増えて欲しいです
ケヤキ並木が枝まで装飾されるといいと思います
竹などのデザインがあるオブジェ
Q23の通りの期間を希望します！
音楽や食事とのコラボと宣伝
櫛並木のイルミネーションを充実して欲しい
継続開催、
飲食店が混雑していたので、店舗を増やして分散してほしい。
朝霞の森にもイルミネーションを設置して、キッチンカーを増やしてほしい
規模を超縮小して、駅前と市役所のみで1年中やってほしい。点灯式イベントは2日してほしい。
とくになし
沿道の木に腹巻きのように中途半端にイルミネーションを巻くよりも、 数本に限定して枝先まで巻いた方がいいと私は思います。
駅近の方が経済効果があるのではと思う。 またはキッチンカーなどがいつも出ていれば立ち寄る目的が出来る。
クオリティの維持
いろんな企業が創作のイルミネーションで競ってほしい
バレンタインくらいまでは開催してほしい。
沿道の並木のイルミも、幹だけでなく上まで付いているとずっと素敵だと思います！
継続してください。
期間を短くする代わりに、濃いものとして欲しい
ケヤキ並木の胴巻きのイルミネーションをもっと高くし、多くしてほしい。
ケヤキ並木のイルミネーションの強化、胴巻きが短い。
継続拡大開催
駅からシンボルロードまでのイルミネーションが続けばいい！
職人技の竹細工は子供たちが職人技を知る、感じるできるので続けてほしいです。 (手付かずの敷地の竹を使っているのか知らないですが、 もし違うならそれを使って(使用しても良いなら)地産地消じゃないですけど、 そういうようなことができたなら良いかなと思います。)
電気代等で反対意見が来て廃止にならないように、初期のときにあつた 保育園児が作ったソーラー？のイルミネーションも復活させたほうがよいのではないかなと思います。
企業だけでなく地域(保育園、幼稚園、小中学校)も参加して、授業の一環で何かを作るとか あつたら、参加している感があってより見にくる人も増えるのかなと思います。

開催はとても大変だと思いますが、朝霞市民として継続してくれると嬉しいです。 子どもたちも楽しそうでした。
開催の準備・運営・撤去と、ご尽力頂いて、ありがとうございます。
早めに開催をして、期間で珈琲ショップ等があると元々の散歩コースに賑わいがやすい。
イルミネーション楽しいのでこのままお願いします。
今後も続けていってほしいです。

令和6年度歳出予算執行見込み 農業委員会運営事業

1 農業委員会運営事業の総コスト

事業費	14,910千円
人件費（1.75人）	13,020千円
計	27,930千円

2 執行見込み額

区 分	6年度執行額（円）
報酬	11,292,540
職員手当等	753,732
報償費	273,600
旅費	898,860
交際費	30,000
需用費	191,488
役務費	174,230
使用料及び賃借料	305,000
負担金、補助及び交付金	137,510
農業委員会運営事業 計	14,056,960

※総コストの事業費は予算額のため執行見込み額とは異なります。

MUSASHINO FRONT ASAKA

“朝霞市の魅力”

わずかな時間で都心部へアクセスできるのに、

木々に、せせらぎに、坂なす小径に

武蔵野のみずみずしい面影を残すまち



#黒目川築堤(東上線黒目川橋梁付近)
#今の仕事のきっかけとなった思い出の地



#浜崎ドッグラン
#愛犬との憩いの場所



#朝霞の冬
#大好きなぼたんがいる空間が好き



#イチョウ並木道
#季節ごとの風景はまるで「名画」



#朝霞駅南口
#街全体のゆったりした雰囲気が好き



#パティスリーモントレーゾ
#数々の大会で賞を総なめにしたパティシェの
絶品スイーツを堪能



#黒目川花まつり
#今年も綺麗に咲きますよう



#ラキアショップ
#ぼたんグッズやここにしかない雑貨、
カフェでゆっくり読書したり、よい空間



#さかうえ農園
#にんじん堀り体験

メンバーの投稿の紹介や市の
魅力を発信しています。



ASAKA_CITY.PROMOTION
instagram



#朝霞の夏
#彩夏祭とラムネと青空



#滝の根公園の吊り橋
#この場所は桜が一番美しい



#朝霞の森
#自然いっぱい!とにかく遊びに行ってみて!

朝霞市民プロモーションミーティングは、「朝霞が好き!」「朝霞の魅力をもっと広めたい!」
という思いで集まった市民の有志チームです。
メンバーは「#わたしのあさか時間」をつけて、朝霞で過ごす日常の魅力を Instagram で発信しています。

発行元／朝霞市 〒351-8501 埼玉県朝霞市本町 1-1-1
☎048-463-1111 (代表)
発行日／令和 7 (2025) 年 3 月
編集／朝霞市市長公室シティ・プロモーション課

※掲載されている内容は、発行日時点のものであり、変更される場合があります。



シティ・セールス朝霞ブランド

朝霞市では、朝霞らしさ、市の魅力を市内外に発信するため、市の誇れる地域資源をブランド認定しています。

認定期間：令和 6年 4月 1日～令和 12年 3月 31日



島の上公園 展望テラス

シティセールス朝霞ブランドロゴデザイン

交通利便性が高いことに加え、武蔵野の風景や自然環境が保たれているまち朝霞市を表現するため、「街並み」と「黒目川」をモチーフに2つのロゴデザインを作成しています。



ロゴマーク
「街並み」



ロゴマーク
「黒目川」

自然環境と利便性のちょうどいいバランスが、暮らす人それぞれの日常に寄り添う「むさしのフロントあさか」

都心から 20 km 圏内、池袋駅から最短 16 分と、通勤・通学や買い物に便利な立地であることに加え、武蔵野のおおらかな自然が残された緑ゆたかなまち、朝霞市。黒目川をはじめとする 4 つの河川が市内を流れ、四季折々の美しい風景が、暮らす人それぞれのライフステージを彩ります。

家の近くで、採れたての産直野菜が買える。夏には、大きなカブトムシがとれる。遊具の面白い公園や手つかずの自然の懷で、こどもたちをのびのびと遊ばせられる。おしゃれなキッチンカーや飲食店、新しいイベントにワクワクする。たくさん歩いて疲れたら、木陰のベンチでひとやすみ。毎日の暮らしがちっと楽しい。特に予定がなくても、休日が待ち遠しい。そんな「むさしのフロントあさか」へ、ようこそ。



埼玉県朝霞市の基本データ



人口：14 万 5,915 人（令和 7 年 3 月 1 日現在）

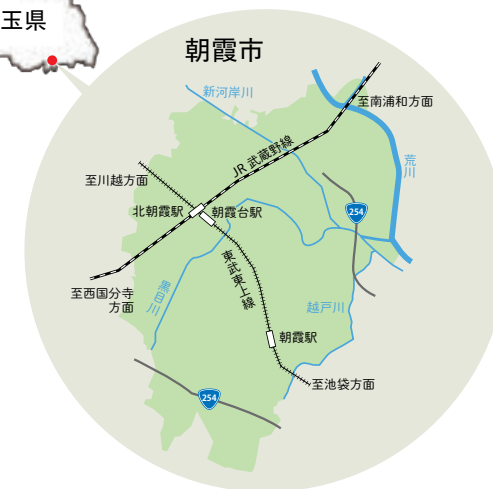
市の面積：18.34 km²

市の木：ケヤキ

市の花：ツツジ

主な利用駅：東武東上線朝霞駅・朝霞台駅（東京メトロ有楽町線・副都心線直通）、JR 武蔵野線北朝霞駅

昭和 42(1967) 年 3 月 15 日に市制が施行され、埼玉県で 27 番目の市となりました。平成 29(2017) 年に市制施行 50 周年を記念し、ブランドタグライン「むさしのフロントあさか」、PR 動画「OKAERI」、キャラクター「ぼぼたん」が誕生。令和 3 (2021) 年には東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の射撃の会場市となりました。



四季の主なイベント

【春】黒目川花まつり (P6)

【夏】朝霞市民まつり「彩夏祭」 (P7)

【秋】アサカストリートテラス (P9)

【冬】あさか冬のあかりテラス (P9) / 北朝霞どんぶり王選手権

※イベントの開催については変動の可能性があります

No.2

本田美奈子・ モニュメント (文化)



流れる音楽は、本田美奈子さんの「新世界」



本田美奈子・記念館

膝折町 4-12-37
入館料：無料
開館日についてはHPで
ご確認ください。



今も響き渡る、
音楽への想いに耳を澄ませて

本田美奈子。さんが、幼いころから亡くなるまで住んでいた朝霞のまちをこよなく愛していたことはよく知られている。本モニュメントは、アイドルからミュージカルまで幅広いジャンルの音楽活動を通して、多くのファンや芸能関係者に愛された本田さんの功績をたたえ、共に、病床にあっても難病で苦しむ人たちを元気づけるメッセージを発信するなど、その真摯な生き方が多くの人に勇気と感動を与えたことから、朝霞駅南口駅前広場に建てられた。

モニュメントには、本田美奈子。さんが病床で書いた直筆の詩「笑顔」と顔写真、活躍の経歴やサインなどが刻まれている。また、左側に設置されたボタンを押すと、本田さんの美しい歌声が流れ、市内外からさまざまな人が行き交う駅前広場に、安らぎをもたらしている。



朝霞市と「武蔵野」

武蔵野とは、関東平野西部の台地を指す言葉で、朝霞市は、武蔵野台地の北東の端に位置しています。市の中央部を流れる黒目川によって開削された河岸段丘の崖地形からは各所で湧き水が見られ、古くから人々が生活した痕跡が発見されています。昭和40年代までは市内の各所で武蔵野の風景が見られましたが、都市化により、武蔵野の面影を探すのも難しくなってきました。市内の国指定重要文化財「旧高橋家住宅」や市指定天然記念物「湧水代官水」は、古くから住み継がれてきた、この地の魅力を今に伝える貴重な存在となっています。

No.1

旧高橋家 住宅 (歴史)



三百年前の暮らしに、
思いを馳せるひととき

旧高橋家住宅は、江戸中期、18世紀前半の建築と推定される木造平屋建て・茅葺の農家建築である。周囲には、納屋や倉などの附属屋のほか、畑や雑木林が広がっており、武蔵野の農家の景観を今に伝えるものとして、敷地も併せて、国指定重要文化財に指定されている。

国内の数ある古民家の中でも、同じ場所に300年在り続けるという点で貴重な存在である。

旧高橋家住宅では、朝霞に古くから伝わる年中行事や、いも掘り体験など、さまざまな催し物を実施している。園内にはゆっくりとした時間が流れ、季節の花々を楽しみながら、江戸時代から営まれてきた暮らしに思いを巡らせることができる。

年中行事・・・毎年同じ時期に同じように行われる、昔から伝わる行事のこと



日頃からかまどに火を入れ、煙で燻すことにより、防虫の効果を得られ、茅を長持ちさせるという昔からの知恵を生かしている。



旧高橋家住宅(市HP)
根岸台 2-15-10



ボランティアの皆さんが、畑作業や園内の美化作業、希望者には園内のガイドも行っている。



No.4
朝霞市民まつり
さいかさい
「彩夏祭」
(行事)

毎年8月の第1日曜日を含む、
金、土、日の3日間開催される。



朝霞市民まつり「彩夏祭」
実行委員会HP

「朝霞の夏」の代名詞

例年市内外から約70万人もの来場者を集め、朝霞市を代表するイベントとして成長を続けている朝霞市民まつり「彩夏祭」。都市化が進み、コミュニティが希薄化していくことに懸念を感じた市民の有志が始め、自ら育んできた40年あまりの歴史がある。

本州で初めて開催された鳴子踊りの祭典である「関八州よさこいフェスタ」では、市内外の約100チームがよさこい鳴子踊りをステージや流し踊りで披露。市内のこどもたちが参加するチームもあり、「朝霞の文化」として次世代にも受け継がれている。

また、全国的にも珍しい市街地で開催される打ち上げ花火は大迫力で、会場が歓声に包まれる。このほかにも、商工まつりや音楽演奏などのイベント、お祭りに欠かせないかき氷や焼きそばなどの出店もたくさんあり、幅広い世代が参加し、共に楽しみ、「朝霞の夏」を熱く盛り上げている。



No.3
黒目川
(景観)



ゆったりとした川の流れに、
ココロを預ける時間

市内をほぼ東西に流れ、川沿いには遊歩道が整備されている黒目川。散策やウォーキング、ジョギングなどを楽しむ多くの人が集まり、周辺の田園風景や新河岸川との合流地点のわくわく田島緑地などとともに、四季折々の景観が訪れる人たちの心を和ませる。

桜の開花時期に合わせて開催される「黒目川花まつり」は、約200本の桜並木と地元のグルメを目前に、毎年4万人ほどが来場し、思い思いにお花見を満喫する。

このほかにも、夏にはこどもたちが浅瀬で水遊びし、秋には紅葉、冬には野鳥がみられるなど、一年を通して、水辺ならではの豊かな自然に親しむことができる、市民の憩いの場となっている。



黒目川沿いの緑のスポットをつなぐ全6コースの「くろめがわグリーントレイルマップ」を片手に、のんびりと散策を楽しむのもおすすめ。



くろめがわグリーントレイル
マップ(市HP)





シンボルロードがオープン
しました！(市HP)



歩くだけで、絵になる道

ケヤキ並木のある閑静な通りであり、ゆったりとした歩行空間やサイクリングロードのほか、緑豊かな広場なども整備され、朝早くから市民がウォーキングやジョギングなどを楽しんでいる。

周辺には、公園や学校、陸上競技場などの公共施設が多く、木陰の中を通学する児童・生徒、ベビーカーを押す子ども連れの家族などの姿が多く見られる。

また、彩夏祭をはじめ、「アサカストリートテラス」に代表されるさまざまなテラスイベント、「あさか冬のあかりテラス」(イルミネーション)などの開催、キッチンカーの出店など、さまざまな場として活用され、まちににぎわいを生み出している。

【シンボルロード】令和2年2月、市道8号線(公園通り)を朝霞市役所南側から延長約680mにわたり、幅を30m拡幅・整備し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催時には、射撃の競技会場へと続く道となった。

No.6

公園通りと シンボルロード (生活)



No.5

にんじん (産品)



大正時代から、この先も

朝霞市におけるにんじんの栽培は大正時代から始まり、現在では指定産地に指定されており、県内でも有数の出荷量を誇る産品である。

「朝霞」に「にんじん」のイメージは、市内では既に定着しており、地元で栽培されたにんじんを素材とした菓子や食品、料理は様々な展開を見せている。

例年12月頃、冬にんじんの収穫時期になると、市内の農家による「にんじん掘り体験」が行われる。子どもたちが土に触れ、普段はなかなか見かけない、葉付きのにんじんを収穫できる貴重な体験となっている。

都市農業が盛んな本市を象徴するような、緑が一面に広がるにんじん畑は、都心に近いながらもどこかほっとする、のどかなまちのイメージの一端を担っている。

朝霞の産直野菜が買える！



浜崎農業交流センター
(市HP)



「むさしのフロントあさか」を育てていく



「むさしのフロントあさか」が目指すもの

過去から大切に受け継いできた「武蔵野」の自然や文化を守っていくことはもちろん、朝霞市に暮らす皆さんが、積極的に現在の日常を楽しみ、新しい「武蔵野らしさ」を創造していくことで、その価値を未来へと引き継いでいくことへの願いがこめられています。

～ロゴタイプやシンボルマーク、イラストをぜひご活用ください～

むさしの フロント あさか

MUSASHINO FRONT ASAKA



ブランドロゴタイプ

武蔵野の自然環境を若葉のグリーンや空のブルーに託したデザイン。朝霞市を象徴するにんじんをオレンジのカラーへと託したデザインやモノクロバージョンもあります。

ブランドシンボルマーク「けやき」

大樹の幹から広がる2種類の若葉によって、朝霞市の自然環境と利便性の両方を表現。丸い点は自然環境、交差する線はコミュニティの広がりを表現しています。



ブランドシンボルマーク「のびねこ」

包容力あふれる「武蔵野」の懷で伸びやかに成長する生命の存在を表現しています。

朝霞市キャラクターぼぼたん

黒目川のほとりに咲いたんぼぽから生まれた妖精のおとこのこです。イラストは全158ポーズ。LINEスタンプもあります。



LINEスタンプはこちら

「むさしのフロントあさか」のロゴタイプやシンボルマーク、ぼぼたんは、朝霞市の魅力を広く市内外にアピールするためにつくられたものです。朝霞市のPR、産品、店舗、事業所等のPRなど朝霞市の認知度向上および産業振興を目的とした活動に幅広くご利用いただけます。詳しくは市ホームページよりガイドラインをご確認ください。



No.7

まちなかベンチ
(生活)



みどりのテラス(シンボルロード中央広場)



木かけのトンネル



雲形ベンチ



ウォーカブルな
取り組みを
ご紹介!(市HP)

まちと目線を合わせるベンチ

朝霞市では、シンボルロードや黒目川沿い、北朝霞駅周辺などに、景観を活かしたベンチやテラス、ミニパークなどが次々と設置されている。

特色あるベンチは、市が主体となって設置するだけでなく、民間主体や官民協働により設置されており、朝霞のまちをより心地よい空間にしたいという思いや民間の活力を感じられるものである。

市内のいたるところに「座れる場所」があることは、人々が歩き、憩い、集い、自然に親しむ場となり、まちにゆとりを生み出している。



ふとんかごベンチ



おうちのベンチ